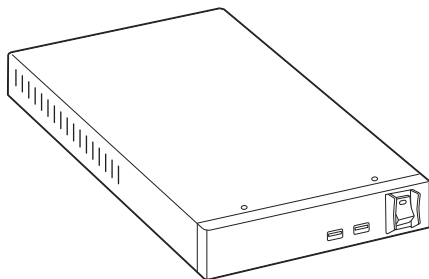


ネットワークデコーダー

型名 **VN-D5**

取扱説明書



本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。最新版の取扱説明書は、下記のモバイルユーザーガイドまたは URL から PDF をダウンロードしてご確認ください。

モバイルユーザーガイド

出先などからは、iPhone 端末で取り扱い方法をご覧ください。

<http://manual3.jvckenwood.com/jkpi/manual/jp/>

モバイルユーザーガイドは、iPhone 端末に標準搭載のブラウザで閲覧することができます。



お買い上げありがとうございます。

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際には本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

日本語入力ツールについて

各設定名を日本語で表示する場合には、日本語入力ツールが必要です。

日本語入力ツールは下記ホームページからダウンロードして、パソコン（以降、PC）で各設定名を編集してください。 http://www3.jvckenwood.com/pro/soft_dl/vn-d5_software/

はじめに

特長

本機は、複数台のネットワークカメラまたはネットワークエンコーダーの映像をモニターにライブ表示し、音声をスピーカーに出力するデコーダーユニットです。

4K ネットワークカメラ、4K モニター出力対応

4K(3840×2160 ピクセル)の鮮明な高解像度映像を出力して、確認することができます。

省スペース

ラック収納や卓上にも設置できる 1U/ハーフサイズです。設置スペースを選ばず、様々な場所へ設置することができます。

ファンレス

ファンレス設計。待合室などの静かな場所にも設置できます。

PC レス

本機にマウスとモニターを接続するだけで、画面切り替えや機器設定ができます。

TZ-TS1000 連動

統合監視ソフトウェア(TZ-TS1000)から外部制御できます。

日本語入力ツール対応

PC を接続し、日本語入力ツールを使用してカメラ名などを日本語で簡単に入力できます。

この取扱説明書の見かた

本文中の記号の見かた

- ご注意 : 操作上の注意が書かれています。
メモ : 機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。
P. : 参考ページや参照項目を示しています。

本書記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- Windows、Microsoft .NET Framework 4.6 は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- iPhone は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。
- QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では、™、®、©などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

取扱説明書の構成

本機の取扱説明書は、次の構成になっています。

名称	内容	形式
VN-D5 取扱説明書 (設置編)	初めて本機を使用する際の設置や、画像を表示するための設定方法、基本的な操作方法について記載しています。	冊子
VN-D5 取扱説明書	本機の設置方法、ビュー画像の表示するための基本設定、必要に応じて設定できることなど、本機を使用するにあたって必要な情報全般が記載されています。	PDF
VN-D5 モバイルユーザーガイド	スマートフォン、タブレット、PC で閲覧できます。	HTML

もくじ

はじめに

特長	2
この取扱説明書の見かた	2
もくじ	3
安全上のご注意	4
正しくお使いいただくためのご注意	9
各部の名称とはたらき	10
前面	10
背面	10
カメラ・モニターなど接続機器について	10
モニターの解像度について	10
HDMI ケーブルについて	10
ネットワークの要件	11
システム構成例	12

準備

準備の流れ	13
設置	13
ラックに設置する	13
接続	14
モニター、マウス、LAN などを接続する	14
電源を入れる／切る	15

設定

設定の流れ	16
その他設定でできること	17
設定ページ画面	18
ソフトウェアキーボードの操作	20
言語切り替え	20
はじめに行う設定	21
ネットワークを設定する	21
日時を設定する	22
カメラを登録する	24
各種設定	26
ネットワークカメラを登録/設定する(カメラ設定)	26
分割表示のビューを登録/設定する(ビュー設定)	28
カメラビューの表示順序を設定する(シーケンシャル設定)	30
曜日ごとにスケジュールを設定する(スケジュール設定)	32
アラーム受信時の動作を設定する(アラーム設定)	33
ネットワークを設定する(ネットワーク設定)	36
画面表示を設定する(表示設定)	37
システムを設定する(システム設定)	40

設定一覧	45
------	----

設定名を日本語に編集する(日本語入力ツール)

日本語入力ツールについて	50
動作環境	50
ダウンロード	50
編集の流れ	51
本機の設定データの読み出し(エクスポート)	52
設定ファイルからの読み出し	52
日本語に編集する	52
カメラ名	52
ビュー名	53
シーケンシャル名	53
アラーム文字列名	54
本機へ設定データを反映する(インポート)	54
設定ファイルの保存	54

カメラの映像を見る(ライブ画面)

ライブ画面	55
ログインする	56
起動画面について	57
モニターの表示を切り替える	58

その他



こんなときは	59
エラーメッセージ	60
ソフトウェア使用許諾契約書	61
本製品のソフトウェアライセンスについて	62
FOSS ライセンス条項	63
保証とアフターサービス	74
主な仕様	75
簡単操作マニュアル	76

はじめに (つづき)

安全上のご注意

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

	警告	この表示 (文字含む) を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています
	注意	この表示 (文字含む) を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています

絵表示の説明

- 注意 (警告を含む) が必要なことを示す記号



一般的注意



感電注意



手をはさまれないよう注意

- してはいけない行為 (禁止行為) を示す記号



禁止



水場での使用禁止



ぬれ手禁止



接触禁止



分解禁止



水ぬれ禁止

- 必ずしてほしい行為 (強制・指示行為) を示す記号



電源プラグを抜く



一般的指示

- 各説明項目の中には、本文と重複している内容もあります。



警告

異常が発生したとき

- 万一、次のような異常が発生したときは、そのまま使用しない
火災や感電の原因となります。
 - ・ 煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常のとき。
 - ・ 画面が映らない、音が出ないなどの故障のとき。
 - ・ 内部に水や物が入ってしまったとき。
 - ・ 落ちたり、キャビネットが破損したとき。
 - ・ 電源コードが傷んだとき。
(芯線の露出、断線など)



このようなときは、すぐに電源を切り、電源のソケットを抜いてください。

煙が出ているときは、止まったのを確かめてから販売店に修理を依頼してください。

お客様ご自身が修理することは危険です。絶対にやめてください。

設置について

- 不安定な場所に置かない
ぐらついている台の上や傾いた所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがをする原因となります。



■ 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと、内部に熱がこもり火災の原因となります。次のことに注意してください。

- ・押し入れ、本箱など狭いところに入れない。
- ・じゅうたんや布団の上に置かない。
- ・テーブルクロスなどを掛けない。
- ・横倒し、逆さまにしない。



■ 風呂場など水のある場所で使わない

機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。また、雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときはご注意ください。



■ 電源や電源コードについて

■ 電源電圧は交流100V以外で使わない

本機付属のACアダプターはAC100V-240Vに対応していますが、電源コードは日本国内向けAC100V専用のため、火災や感電の原因となります。



■ 船などの直流[DC]電源に接続しない

火災の原因となります。



■ トラックやバスなどのDC24V電源に接続しない

火災の原因となります。



■ 雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



■ 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
- ・電源コードの上に機器本体や重いものをのせない。
- ・電源コードを熱器具に近づけない。



■ ボタン電池は、小さなお子様手の届かないところに置く

使用する際も小さなお子様ที่ใช้用機器（または充電器）から取り出さないように注意してください。

万一、お子様が飲みこんだ場合は、すぐに医師と相談してください。



■ 電源プラグやコンセントにほこりや金属が付着したまま使わない

ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。半年に一度はプラグを抜いて乾いた布でふいてください。



はじめに (つづき)

取り扱いについて

■ 内部に物を入れない

通風孔や本体のすきまなどから、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。



■ この機器の（裏ふた、カバー、キャビネット）は外したり、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理は販売店に依頼してください。



■ この機器の上に水の入ったもの（花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など）を置かない

機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。



注意

設置について

■ 次のような場所に置かない

火災や感電の原因となることがあります。

- ・湿気やほこりの多い所
- ・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる所
- ・熱器具の近くなど
- ・窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たって温度が上がる所
- ・窓ぎわなど水滴の発生しやすい所



■ この機器の上に重い物を置かない

重いものや本体からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。



■ 機器を重ねて使用しない

お互いの熱やノイズの影響で誤動作したり故障したり、火災の原因となることがあります。



■ 本機を縦置きしない

縦置きにすると、転倒によるけがや、内部に熱がこもることにより火災の原因となることがあります。



■ テレビ、オーディオ機器、ビデオ機器、スピーカーなどの機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明書に従って接続する

接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると発熱し、火災ややけどの原因となったり、感電のおそれがあります。



取り扱いについて

■ この機器の上に乗らない、ぶら下らない

倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。



■ 長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。



■ この機器の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない
頭からかぶると窒息の原因となります。



電源や電源コードについて

■ 電源プラグはコードの部分を
持って抜かない

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災・感電の原因となることがあります。



■ めれた手で電源プラグを抜き
差ししない

感電の原因となることがあります。



■ 移動するときは、電源プラグ
や接続コード類を外す

接続したまま移動すると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



■ 電源プラグは、根元まで差し
込んでもゆるみがあるコンセ
ントには接続しない

発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。



■ 専用ACアダプターを使う

指定以外のものを使用すると火災や感電の原因になることがあります。

また、本機のACアダプターを他の機器に使用しないでください。火災や感電の原因となることがあります。



■ 電源コードは、本機に付属の
もの以外を使用しない
また、付属のコードは本機以
外の機器に使用しない

必ず本機に付属のものをご利用ください。耐圧の異なるコードや、傷ついたコードを使用すると、火災や感電の原因となります。



■ 電源プラグが容易に抜き差し
できる空間を設ける

機器はコンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



お手入れについて

■ 2～3年に一度は内部の掃除を
販売店に依頼する

内部にホコリがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。



■ お手入れするときは電源プラグ
を抜く

感電の原因となることがあります。



■ 定期的に点検する

取付部の劣化や振動によるねじのゆるみを定期的に点検し、落下の危険がないことを確認してください。



はじめに (つづき)

音声・スピーカー

- 音量を下げてから、電源を入れる（機械式ボリュームの場合）

音量が上がっていると、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



- 聞き終わったら、電源を切る前に、音量を下げる（電子式ボリュームの場合）

音量が上がっていると、電源を入れたとき突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



- ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



- 長時間、音がひずんだ状で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



正しくお使いいただくための ご注意

保管および使用場所

- 本機は、屋内専用です。屋外での使用はできません。
- 次のような場所に置かないでください。誤作動の原因になります。
 - 許容動作温度(0℃～40℃)範囲外の暑いところや寒いところ
 - 許容動作湿度(30%RH～80%RH)範囲外の湿気の多いところや少ないところ
 - 変圧器やモーターなど強い磁気を発生する機器の近く
 - トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器の近く
 - 放射線やX線、および塩害や腐食性ガスの発生するところ
 - 振動の激しいところや不安定なところ

取り扱いについて

- 機器を重ねて使用しないでください。お互いの熱やノイズの影響で誤動作したり故障したり、火災の原因となることがあります。
- 本機は平置き以外で使用しないでください。転倒によるけがの原因となることがあります。
- 本機の上部に水の入ったもの(花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かないでください。機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。
- 内部に物を入れないでください。通風孔などから、金属類や燃えやすいものなどを入れると火災や感電の原因となります。

移動について

- 移動するときは接続コード類ははずしてください。移動するときは、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

お手入れについて

- お手入れは、電源を切ってから行なってください。
- 本機清掃時は外装キャビネット部は柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジンなどではふかないでください。表面がとけたり、くもったりします。汚れがひどいときは、中性洗剤を水でうすめてふき、あとでからぶきをしてください。

省エネについて

- 長時間使用しないときは、安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。

電源コードについて

- 電源コードの上に重いものを乗せたり、コードを本機の下敷きにしたりしないでください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

操作時のご注意

- 映像と音声はずれて出力される場合があります。
- ファームウェア更新中に電源を切らないでください。

パスワードについて

- 工場出荷時のパスワードは、広く公開されているため変更せずに使用していると大変危険です。容易に憶測されない文字と数字を組み合わせたパスワードに設定してください。また、パスワードは、定期的に変更してください。
- パスワードを忘れた場合、有償にて対応いたしますので、お買い上げの販売店または業務用修理窓口までお問い合わせください。

妨害波に関する表示

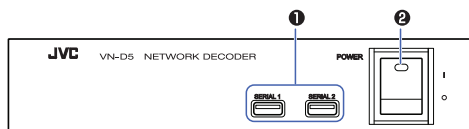
この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

はじめに (つづき)

各部の名称とはたらき

前面



① SERIAL1、SERIAL2 (シリアル) 端子

マウスまたは、USB メモリーを接続します。

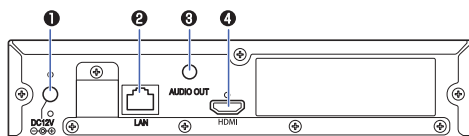
ご注意：

- 定格消費電流は SERIAL1 と SERIAL2 の合計で 500 mA 以下です。

② POWER (電源) スイッチ

電源が ON のときに内蔵 LED が緑色に点灯します。

背面



① DC12V (電源) コネクター

付属の専用 AC アダプターを接続します。

② LAN (ネットワーク) 端子

ネットワークカメラ、PC を LAN ケーブルで接続します。

③ AUDIO OUT (音声出力) 端子

RCA 端子、アンプ内蔵タイプのスピーカーを接続します。

④ HDMI 端子

HDMI モニターを接続します。ハイスピード HDMI ケーブル Type A での接続に対応しています。本機は、HDMI 音声出力に対応していません。

カメラ・モニターなど接続機器について

あらかじめ、ネットワークカメラの IP アドレスを設定しておいてください。

ネットワークカメラの使用するプロトコル、ポート番号については、ネットワークカメラの取扱説明書をご覧ください。

ご注意：

- 接続する前に、すべての機器の電源を切ってください。
- 故障したスイッチングハブやルーター、劣化した LAN ケーブルなどは接続しないようにしてください。
- 圧縮方式が H.264 対応のネットワークカメラのみ接続可能です。
- ネットワークカメラの PTZ (パン・チルト・ズーム) 制御は本機からはできません。
- 本機の映像出力は HDMI 方式のみです。

モニターの解像度について

HDMI 端子の出力解像度は、モニターに合わせて変更することができます。(P.39)

本機の電源を入れたまま別のモニターに繋ぎ替えると、本機がそのモニターに対応していない解像度に設定されている場合に映像が表示されません。その場合は電源を入れなおしてください。最適な解像度に再設定されます。

HDMI ケーブルについて

5 m 以上の長尺ケーブルを使用する場合は、イコライザ機能付きのケーブルを使用してください。設置工事については、お買い上げ販売店、または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

ネットワークの要件

ネットワーク帯域

本機はネットワークカメラの画像をモニターに1/4/6/9/12/16分割表示できます。表示画像のデータ量に応じて、十分なネットワーク帯域を確保してください。

メモ：

- カメラ登録設定で、ストリームタイプを「Dual Stream」に設定した場合、表示する分割数にかかわらず、単画面用(メインストリーム)、分割画面用(サブストリーム)両方のストリームを同時に受信します。そのため受信データ量も「Single Stream」に設定した場合よりも多くなります。カメラの各ストリームのビットレート設定を確認して、ネットワーク帯域を十分確保してください。

表示可能な設定例

H.264 3840×2160 12 Mbps 30 ips	H.264 1920×1080 4 Mbps 30 ips
単画面のみ	単画面～16分割

※1 上記は参考例です。

※2 LAN 環境、カメラ性能、各種設定により、フレームレートが低下したり、画像が表示されないことがあります。

※3 フレームレートが 30ips を超える映像を受信した場合、映像遅延やフレーム抜けなど、正常に映像が表示されないことがあります。

ネットワーク遅延

ネットワーク遅延が大きい環境では、フレームレートが低下したり、画像が表示されないことがあります。

ネットワークパケットロス

ネットワークパケットロスが多い環境では、フレームレートが低下したり、画像が表示されないことがあります。

使用するポート番号

本機では、下記のプロトコル、ポート番号を使用しています。

TCP/80 : API 通信用(変更可能)

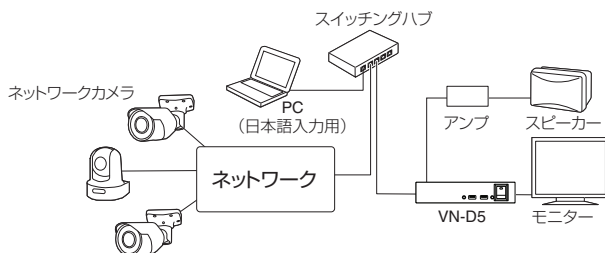
UDP/20000 : アラーム受信用(変更可能)

はじめに (つづき)

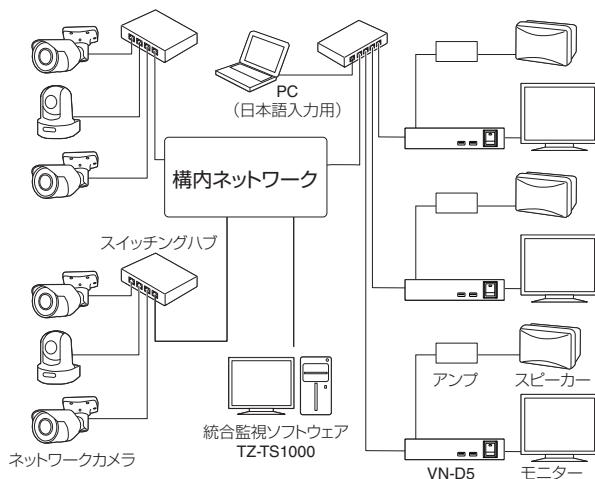
システム構成例

本機を使用して、次のようなシステムを構築できます。

小規模システム(VN-D5 を 1 台設置)



大規模システム(VN-D5 を複数台設置)



メモ:

- 本機には 256 台までのネットワークカメラを登録でき、1 台のモニターに最大 16 台のネットワークカメラの映像を分割表示できます。
- PC はカメラ名などに日本語を入力する場合に使用します。(P.50)

準備

準備の流れ

本機の設定をはじめる前に次の準備が必要です。設置・接続は専門業者または販売店にご依頼ください。

1. 本機の設定

☞「ラックに設置する(P.13)」



2. モニター、マウス、LAN の接続

☞「モニター、マウス、LANなどを接続する(P.14)」



3. 電源を入れる

☞「電源を入れる/切る(P.15)」

設置

ラックに設置する

別売りのラックマウント金具を使用して、本機をラックに組み込むことができます。

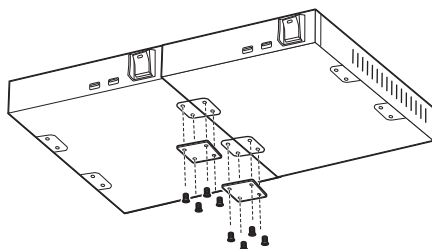
- 使用可能ラックマウント金具
 - VN-RU01: 本機 1 台取り付け用
 - PS-RU11: 本機 2 台連結取り付け用

本機 1 台をラックに取り付ける

取り付け方法については、VN-RU01 ラックマウント金具の設置説明書をご覧ください。

本機を 2 台連結してラックに取り付ける

- 1 フットをすべてはずす
- 2 本機に付属されている連結金具を付属のねじで取り付ける



- 3 ラックマウント金具 PS-RU11 を連結された本機左右に取り付ける

取り付け方法については、PS-RU11 ラックマウント金具の設置説明書をご覧ください。

ご注意:

ラックマウント金具を取り付ける場合のご注意

- 本機にラックマウント金具を取り付ける場合、必ずラックマウント金具に添付のねじをご使用ください。添付のねじ以外を使用すると、故障の原因になることがあります。

ラックに設置する場合のご注意

- 本機周辺の温度(ラック内部の温度)が許容動作温度(0℃～40℃)を超えないよう十分注意してください。
- 本機周辺の温度(ラック内部の温度)が動作保証範囲外である場合は、許容動作温度になるようにしてください。
- 本機を複数設置する場合は、機器内部の温度上昇を防ぐため間隔を 1U 以上空けてご使用ください。

机の上に設置する場合のご注意

- 振動などで落下しないように設置してください。
- 次のような使用はしないでください。発熱のため故障や誤動作の原因となることがあります。
 - 密閉された場所での使用
 - 本機を 2 台重ねての使用
 - 上に物をのせての使用
 - 発熱する機器に近づけての使用

準備 (つづき)

接続

モニター、マウス、LANなどを接続する

ご注意:

- モニターやマウスを接続してから本機の電源を入れてください。

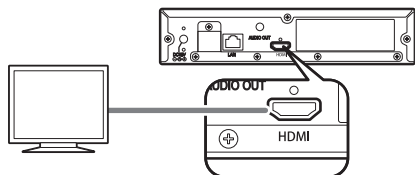
モニター

背面の "HDMI" 端子にモニターを接続します。
表示できるモニターの解像度は次のとおりです。

- 3840×2160
- 1920×1080
- 1440×900
- 1280×1024
- 1024×768

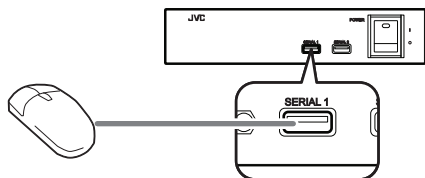
メモ:

- 接続するモニターによっては、表示できない解像度があります。



マウス

前面の "SERIAL 1" または、"SERIAL 2" (シリアル端子) にマウスを接続します。



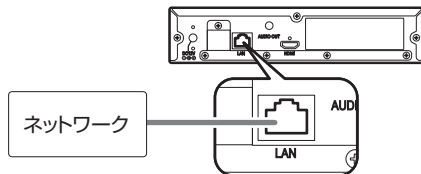
文字はソフトウェアキーボード (P.20) から入力、または、日本語入力ツール (P.50) を使用して PC から入力することができます。

メモ:

- 本機は USB キーボードには対応していません。

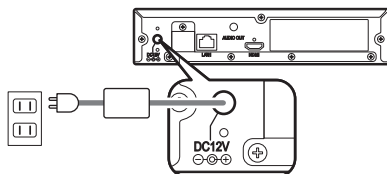
LAN

背面の "LAN" 端子 (1000BASE-T/100BASE-TX) に LAN ケーブルを接続します。



電源ケーブル

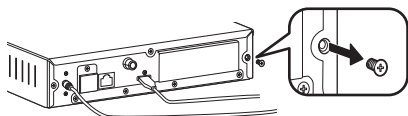
背面の "DC12V" (電源) コネクターに付属の専用 AC アダプターを接続します。



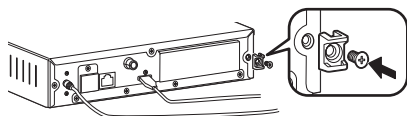
ケーブルの抜けを防止する

電源ケーブルや HDMI ケーブルなど、ロック機能がないケーブル類の抜けを防止するため、以下の方法で固定することをおすすめします。

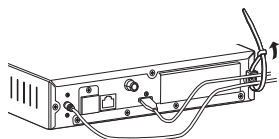
- 1 背面右のねじをはずす
(はずしたねじは、大切に保管してください)



- 2 M4 ねじ用タイマウント固定具(以下固定具、添付していません)を UNC#6-32 長さ 6 mm~8 mm のインチねじ(皿ねじは使用しないでください。添付していません)で固定する



- 3 結束バンド(厚さ 1.4 mm 以下、添付していません)を固定具の孔に通し、ケーブルを束ね結束バンドで固定する



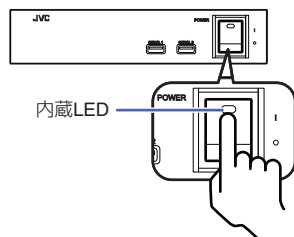
電源を入れる／切る

電源を入れる

ご注意: _____

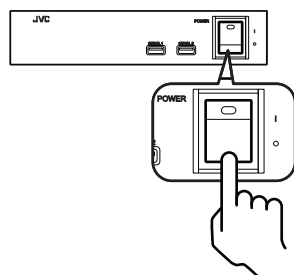
- 運用中は USB メモリーを接続したままにせず、取りはずしてください。

- 1 前面の "POWER"(電源)スイッチを "I"(ON)にする
 - 内蔵 LED が緑色に点灯します。



電源を切る

- 1 前面の "POWER"(電源)スイッチを "O"(OFF)にする
 - 内蔵 LED が消灯します。



本機の専用 AC アダプターは "POWER"(電源)スイッチを "O"(OFF)にしてから抜き差ししてください。

設定

設定の流れ

本機とネットワークカメラやネットワークエンコーダーを接続し、それらの映像をモニターに表示するには以下の手順で設定してください。

1. ネットワークカメラのネットワーク設定

☞ ネットワークカメラの取扱説明書を参照してください。



2. 日本語入力ツールのダウンロード

カメラ名やビュー名を日本語にする場合にダウンロードします。ダウンロードにはインターネット接続環境が必要です。

また、日本語入力ツールを使用するには PC および、PC の本機への接続または USB メモリーが必要です。

☞「日本語入力ツールについて(P.50)」



3. 本機のネットワーク設定

本機をネットワークに接続するために IP アドレスなどを設定します。

☞「ネットワークを設定する(ネットワーク設定)(P.36)」



4. 本機のシステム設定

日時、音量などを設定します。

☞「システムを設定する(システム設定)(P.40)」



5. ネットワークカメラの登録及び設定

本機に接続するネットワークカメラまたはネットワークエンコーダーの IP アドレス、カメラ名などを設定します。

☞「ネットワークカメラを登録/設定する(カメラ設定)(P.26)」



次ページの「その他設定でできること」についても、ご覧ください。

メモ：_____

- ネットワークカメラの映像をモニターに表示するまでの、本機の必要最低限の設定は「はじめに行う設定(P.21)」で設定できます。

その他設定でできること

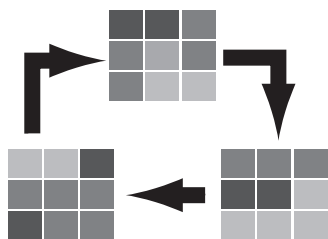
その他設定でできることは、取扱説明書の[設定]-「各種設定」の各項目を参照してください。

分割表示のビューを登録／設定する (ビュー設定)(P.28)



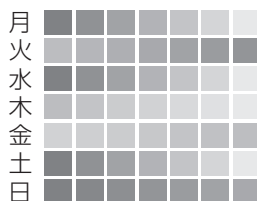
4分割、6分割、9分割などに割り当てるネットワークカメラを決め、分割画面をビューとして登録できます。

カメラ／ビューの表示順序を設定する (シーケンシャル設定)(P.30)



ビュー設定で登録した分割画面または単画面を指定した順序で表示する設定ができます。

曜日ごとにスケジュールを設定する (スケジュール設定)(P.32)



ネットワークカメラの映像、登録したビュー画面、シーケンシャル画面を曜日ごとに時間単位で表示するスケジュール設定ができます。

アラーム受信時の動作を設定する (アラーム設定)(P.33)



ネットワークカメラからの動き検出通知/端子アラーム通知に連動して表示する設定ができます。

画面表示を設定する(表示設定)(P.37)

FULL HD
(1920 x 1080)



4K
(3840 x 2160)




解像度や映像枠表示など、モニターの表示設定を変更することができます。

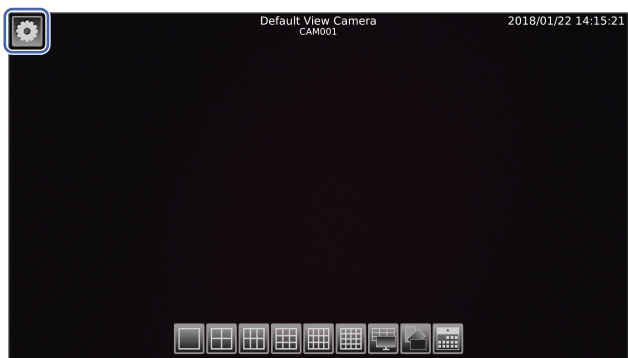
設定 (つづき)

設定ページ画面

設定ページ画面の表示方法

ライブ表示画面でマウスを動かすとボタンが表示されます。

 アイコンをクリックすると設定ページ画面が表示されます。




設定ページ画面について



① 設定メニュー

設定項目が表示されます。クリックすると各設定ページへ移動します。

② 言語切り替えボタン

 をクリックすると、言語切り替えダイアログ(P.20)が表示され、設定することができます。

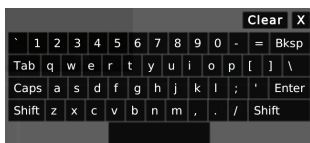
③ ボタン

 をクリックすると設定ページが閉じます。

設定 (つづき)

ソフトウェアキーボードの操作

文字入力が必要な項目をクリックすると、画面にソフトウェアキーボードが表示されます。



文字をクリックして入力し、"Enter"を押して入力を終了します。

カメラ名などに日本語を入力する場合は、日本語入力ツールを使用します。日本語入力ツールを使用するには PC が必要です。(P.50)

枠の大きさ以上の長い文字を入力すると、末尾の文字が見えにくい場合があります。マウスの操作により確認してください。

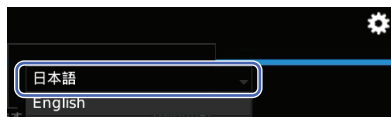
言語切り替え

1 設定ページで をクリックする

- 言語切り替えダイアログが表示されます。



2 ブルダウンから変更したい言語を選択する

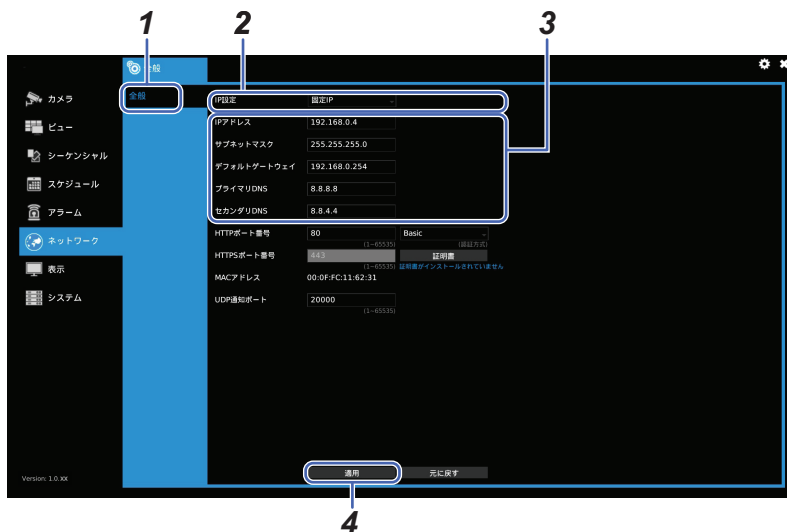


はじめに行う設定

ここでは本機の電源を入れた後、ネットワークカメラの映像が表示されるまでの設定をします。

ネットワークを設定する

モニター、マウス、LAN の接続が終わったら、電源を入れて本機のネットワーク設定をします。



1 設定ページの「ネットワーク」⇒「全般」タブを選択する

2 「IP設定」を「固定IP」または「DHCP」から選択する

- IPアドレスを手動で割り当てる場合は「固定IP」、自動で取得する場合は「DHCP」を選択してください。

3 「固定IP」に設定した場合は以下を設定する

- IPアドレス:本機に使用するIPアドレスを入力します。
- サブネットマスク:本機に使用するサブネットマスクを入力します。
- デフォルトゲートウェイ:本機に使用するデフォルトゲートウェイを入力します。
- プライマリDNS:本機に使用するプライマリDNSを入力します。
- セカンダリDNS:本機に使用するセカンダリDNSを入力します。

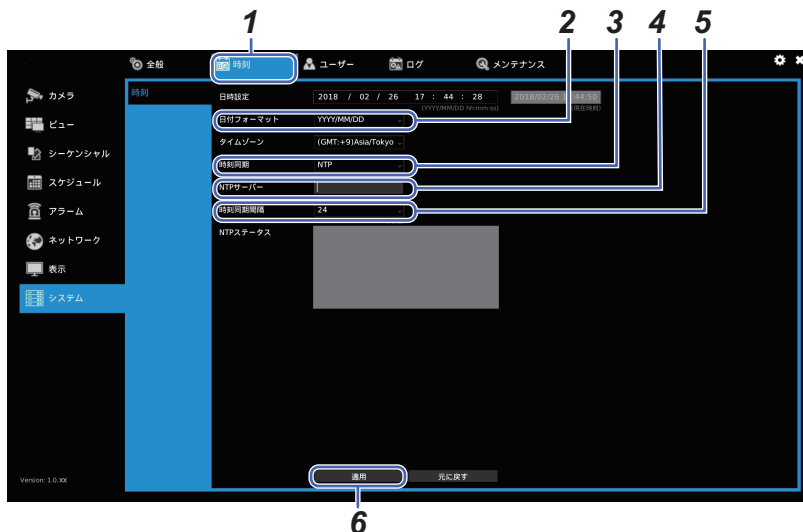
4 設定が終わったら、「適用」を押す

設定 (つづき)

日時を設定する

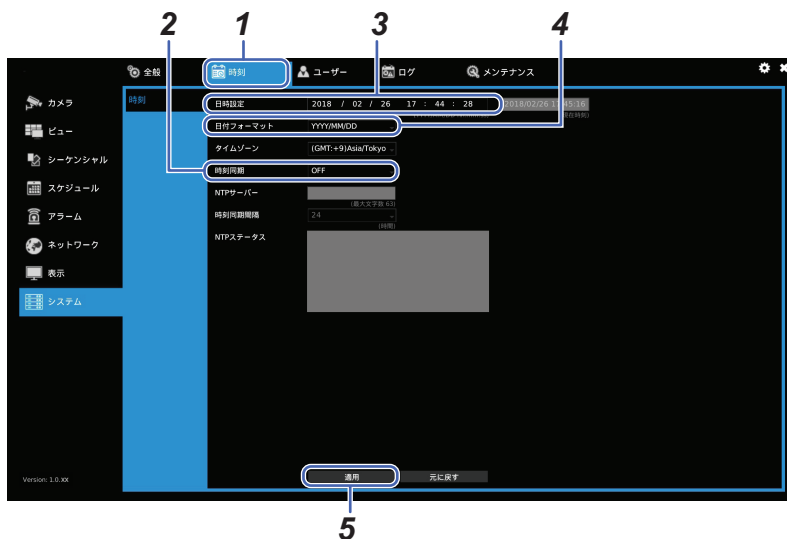
ネットワーク設定が終わったら、本機の日時を設定します。
より正確な時刻に合わせるために、時刻サーバー (NTP サーバー) を使用することをおすすめします。

NTP サーバーを使用して日時を設定する場合



- 1 設定ページの「システム」⇒「時刻」タブを選択する
- 2 「日付フォーマット」で表示したいフォーマットを選択する
 - 「YYYY」は年、「MM」は月、「DD」は日を表しています。
- 3 「時刻同期」から「NTP」を選択する
- 4 「NTP サーバー」に使用する NTP サーバーのアドレスを入力する
- 5 「時刻同期間隔」で NTP サーバーとの同期間隔を [1] 時間、[4] 時間、[24] 時間から選択する
- 6 設定が終わったら、「適用」を押す

手動で日時を設定する場合

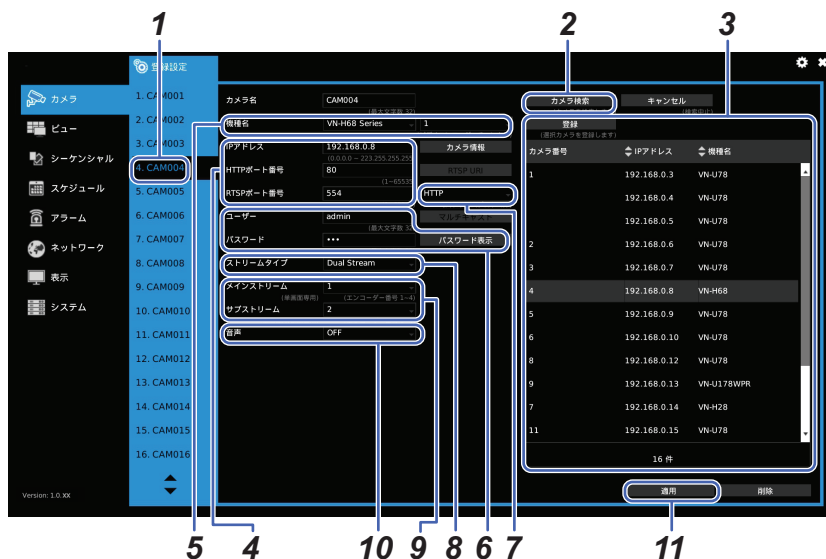


- 1 設定ページの「システム」⇒「時刻」タブを選択する
- 2 「時刻同期」を「OFF」にする
 - 初期設定は「OFF」です。「OFF」の場合はそのまま設定を進めてください。
- 3 「日時設定」に現在時刻を手動で入力する
- 4 「日付フォーマット」で表示したいフォーマットを選択する
 - 「YYYY」は年、「MM」は月、「DD」は日を表しています。
- 5 設定が終わったら、「適用」を押す

設定 (つづき)

カメラを登録する

本機のネットワーク設定、日時設定が終わったら、ネットワークカメラまたはネットワークエンコーダーの登録を行います。ネットワークカメラまたはネットワークエンコーダーは 256 台まで登録できます。



1 設定ページの「カメラ」⇒「登録設定」⇒

[CAM001～CAM256] タブを選択する

- 設定したいカメラ番号を選択してください。ここでは「CAM004」を例として説明します。

2 [カメラ検索] を押す

- [カメラ検索] を押すと、本機と同一ネットワーク上にあるネットワークカメラ、もしくはネットワークエンコーダーを検索します。検索が終了すると検索結果に該当するネットワークカメラなどの IP アドレスと機種名がリスト表示されます。すでに登録済みのカメラはカメラ番号が表示されます。

3 検索結果から登録したいネットワークカメラなどを選択し、[登録] を押す

- 検索したネットワークカメラから任意のものを「CAM004」のカメラとして登録します。登録されると、選択したネットワークカメラの情報が各項目に反映されます。
- カメラ登録後、検索されたほかのネットワークカメラを上書き登録することができます。

カメラ検索をしない場合は次の手順で各項目を入力してカメラを登録してください。

4 登録するネットワークカメラの [IP アドレス]、[HTTP ポート番号]、[RTSP ポート番号] を入力する

5 登録するネットワークカメラの「機種名」を選択する

- マルチチャンネルカメラの場合はチャンネル番号も選択してください。

6 登録するネットワークカメラの [ユーザー]、[パスワード] を入力する

- [パスワード] の [パスワード表示] を押すと、パスワードを確認することができます。

7 「ストリームプロトコル」を[HTTP]、[RTSP/TCP]、[RTSP/HTTP]、[UDP]または[Multicast]から選択する

ご注意： _____

- 表示されるストリームプロトコルは、設定したカメラの機種により異なります。

8 「ストリームタイプ」を[Single stream]または[Dual stream]から選択する

- [Single stream]を選択した場合は、サブストリームのみ受信します。[Dual stream]を選択した場合は、メインストリームとサブストリーム両方を受信します。
- [Dual stream]では、メインストリームが単画面用、サブストリームが分割画面表示用ストリームになります。メインストリームの最大解像度は 3840×2160、サブストリームの最大解像度は 1920×1080 です。

ご注意： _____

- [Single stream]で、1920×1080 を超える解像度の映像(4K 映像など)を受信した場合、単画面では映像表示できませんが、分割画面では映像表示できません。このような場合は、ストリームタイプの設定を[Dual stream]にし、メインストリームで 1920×1080 を超える解像度を、サブストリームで 1920×1080 以下の映像を受信するように、設定してください。

9 「メインストリーム」と「サブストリーム」それぞれに割り当てるネットワークカメラの「エンコーダー番号」を[1]～[4]から選択する

10 音声の受信を[ON]または[OFF]から選択する

- 対応音声フォーマットは、G.711μ-law です。
- 分割画面に割り当てられている複数のネットワークカメラの「音声」設定が[ON]になっている場合、「ビュー」設定 ➡ 「音声カメラ」に指定されたネットワークカメラの音声が出力されます。
- デフォルトビュー(分割)では音声は出力されません。

ご注意： _____

- 音声機能付きのネットワークカメラなどを本機と接続して使用する場合、本機の音声設定と、カメラの音声設定の状態を合わせてください。本機側の音声受信設定が[ON]の状態にもかかわらず、カメラ側の音声出力の設定が OFF または無効な状態で運用した場合、本機のライブ映像が数秒間隔で途切れたり、カメラに接続できなくなったりします。カメラを本機に登録したときに、必ず設定を合わせてください。

11 登録設定が終わったら、[適用]を押す

- すべてのカメラの設定が保存されます。

ご注意： _____

- 本項目中、CAM004 の設定後に[適用] ボタンをクリックせずに CAM005 の設定後に[適用] ボタンをクリックした場合でも、CAM004 と CAM005 両方の変更が保存されます。

ここまでが、はじめに行う設定です。
ここまでの設定を行い、設定画面を閉じ、ライブ画面下のボタンで表示パターンを選択すると、カメラの映像が表示されます。

メモ： _____

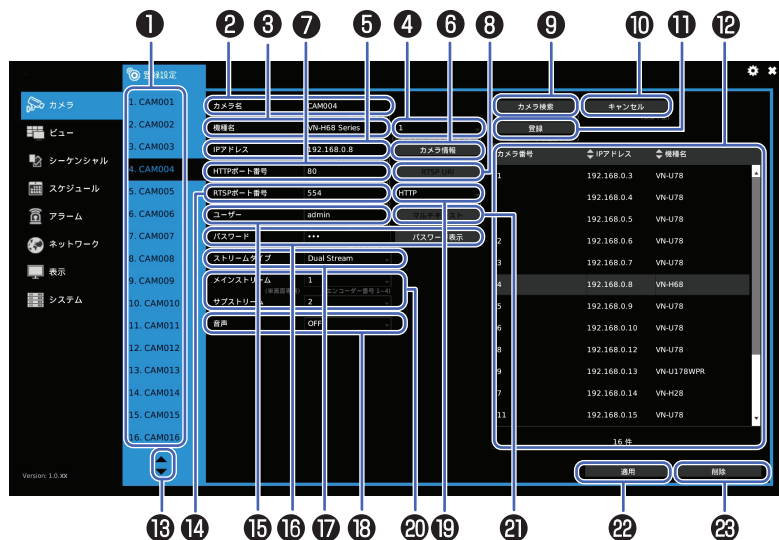
- 起動直後に自動で映像を表示するためには「表示」➡[全般]➡[起動時の表示]で設定を行なってください。(P.57)

各種設定

ここでは、各項目の説明と簡単な設定方法について説明します。

ネットワークカメラを登録/設定する(カメラ設定)

ネットワークカメラまたはネットワークエンコーダーの登録を行います。カメラリスト(①)から、ネットワークカメラもしくはエンコーダーを登録したいカメラ番号を選択します。[カメラ検索]ボタン(⑧)を押して、同一ネットワークで接続可能なネットワークカメラやエンコーダーを検索することができます。検索結果は、検索結果リスト(⑪)に表示されます。①に登録したいネットワークカメラやエンコーダーを、検索結果リスト(⑪)から選択し、[登録]ボタン(⑩)を押します。登録したネットワークカメラやエンコーダーの情報が設定画面に反映されます。お客様のシステムに合わせて情報の編集を行なってください。



- ① カメラリスト(カメラ番号、カメラ名)**
登録するカメラ番号を選択します。最大で 256 台のネットワークカメラを登録できます。
- ② カメラ名**
ネットワークカメラの名称を入力します。半角 32 文字、日本語(全角)16 文字まで入力できます。日本語は、日本語入力ツールを使用して PC から入力します。(P.50)
- ③ 機種名**
対応ネットワークカメラ機種から選択します。
- ④ チャンネル**
VN-E4B や、一部のネットワークカメラの場合、チャンネル番号を [1] ~ [16] から選択します。
- ⑤ IP アドレス**
接続するネットワークカメラの IP アドレスを入力します。
- ⑥ カメラ情報**
[カメラ情報] を押すと、製造元、モデル、バージョンなどのカメラの情報を取得します。カメラ側の設定や接続状況などで、カメラ情報を取得できない場合もあります。

(次ページへつづく)

7 HTTP ポート番号

接続するネットワークカメラの HTTP ポート番号を入力します。

8 RTSP URI

「ストリームプロトコル」を [RTSP/TCP]、[RTSP/HTTP] または [UDP] に設定するとボタンが有効になります。[RTSP URI] を押すと URI 設定ダイアログが表示されます。

RTSP URI

メインストリーム

サブストリーム

URI を指定する時は、RTSP サーバーの解像度設定が正しいか確認してください
(メインストリーム：最大3840x2160、サブストリーム：最大1920x1080)

URI 記入例:
rtsp://192.168.0.111/rtspuri, "rtspuri" の部分が RTSP URI になります

適用 キャンセル

9 カメラ検索

ネットワーク上のカメラを検索します。検索結果は下にリスト表示されます。

10 キャンセル

ネットワークカメラ検索を中断します。

11 登録

ネットワークカメラ検索の検索結果リストで選択したネットワークカメラを登録します。選択したネットワークカメラの IP アドレスなどが自動入力されます。

12 検索結果

ネットワークカメラ検索の検索結果をリスト表示します。
リストには IP アドレスと機種名が表示され、すでに登録済みのネットワークカメラはカメラ番号が表示されます。

13 ページ切り替え

カメラ番号のリストを上下にページを切り替えます。

14 RTSP ポート番号

接続するネットワークカメラの RTSP ポート番号を入力します。

15 ユーザー

接続するネットワークカメラのユーザー ID を入力します。

16 パスワード

接続するネットワークカメラのパスワードを入力します。

17 ストリームタイプ

「ストリームタイプ」を [Single stream] または [Dual stream] から選択します。

[Single stream] を選択した場合は、サブストリームのみ受信します。[Dual stream] を選択した場合は、メインストリームとサブストリーム両方を受信します。

[Dual stream] では、メインストリームが単画面用、サブストリームが分割画面表示用ストリームになります。メインストリームの最大解像度は 3840x2160、サブストリームの最大解像度は 1920x1080 です。

18 音声

音声の受信を [ON] または [OFF] に設定します。対応音声フォーマットは、G.711μ-law です。

19 ストリームプロトコル

ストリームプロトコルを [HTTP]、[RTSP/TCP]、[RTSP/HTTP]、[UDP]、[Multicast] から選択します。

20 エンコーダー番号

「メインストリーム」と「サブストリーム」のエンコーダー番号をそれぞれ [1] ~ [4] から選択します。

21 マルチキャスト

「ストリームプロトコル」を [Multicast] に設定するとボタンが有効になります。
[マルチキャスト] を押すとマルチキャスト設定ダイアログが表示されます。
ポート番号は、他のカメラを含め互いに異なる番号になるよう設定してください。

マルチキャスト

メインストリーム

IP アドレス (メイン) (224.0.0.0~239.255.255.255)

ポート番号 (メイン) (1~65535)

サブストリーム

IP アドレス (サブ) (224.0.0.0~239.255.255.255)

ポート番号 (サブ) (1~65535)

オーディオストリーム

IP アドレス (224.0.0.0~239.255.255.255)

ポート番号 (1~65535)

適用 キャンセル

22 適用

すべてのカメラの設定内容が保存されます。

23 削除

選択しているカメラを削除します。

設定 (つづき)

分割表示のビューを登録/設定する(ビュー設定)

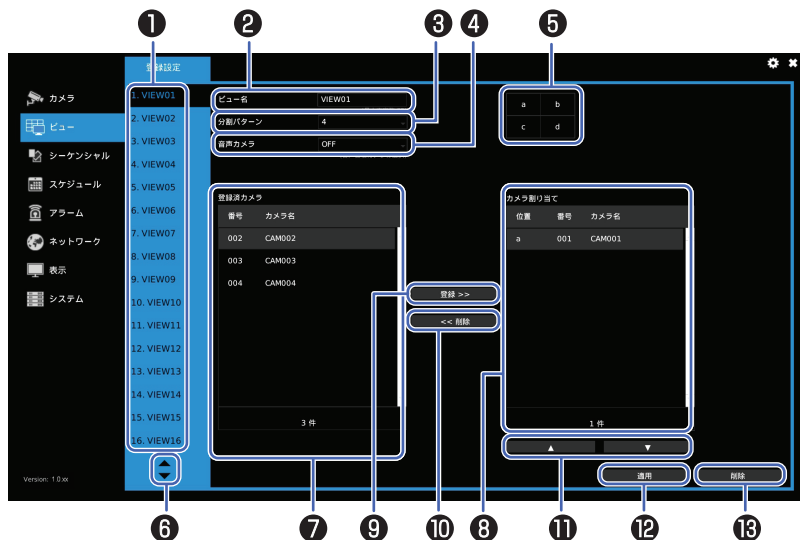
デフォルトビュー(P.55)での分割表示のほかに、任意のビューを 64 画面まで登録することができます。

登録したビューはスケジュールやシーケンシャルの設定で選択できるようになります。

登録したビューはライブ表示画面(P.55)から表示できます。

ビューに登録したいネットワークカメラを[登録済みカメラ]リスト(7)から選択して[登録]ボタン(9)を押します。登録するネットワークカメラが分割パターン位置図(5)の a から順番に位置が割り当てられて、[カメラ割り当て]リストに表示されます。

分割パターンのカメラ割り当て位置は[▲] [▼]ボタン(11)で変更できます。



① ビューリスト(ビュー番号、ビュー名)

登録するビュー番号を選択します。

② ビュー名

ビューの名称を入力します。半角 32 文字、日本語(全角) 16 文字まで入力できます。日本語は、日本語入力ツールを使用して PC から入力します。(P.50)

③ 分割パターン

分割パターンを 4、6、9、12、16 分割から選択します。選択した分割パターンで、分割パターン位置図が切り替わります。

④ 音声カメラ

「カメラ割り当て」リストのネットワークカメラ「a」～「p」の中から音声を入力するネットワークカメラを 1 台選択します。音声を入力しない場合は「OFF」を選択します。

⑤ 分割パターン位置図

「分割パターン」を選択すると選択した分割パターンの図に切り替わります。

⑥ ページ切り替え

ビュー番号のリストを上下にページを切り替えます。

⑦ 登録済みカメラ

本機に登録済みのネットワークカメラが表示されます。

⑧ カメラ割り当て

ビューに割り当てられたネットワークカメラが表示されます。「a」～「p」は分割パターン位置図の割り当て位置を示しています。

(次ページへつづく)

⑨ **登録**

「登録済カメラ」リストでビューに割り当てるネットワークカメラを選択して、[登録] ボタンをクリックすると、分割パターン位置図の a から順番に位置が割り当てられて、「カメラ割り当て」リストに表示されます。

⑩ **削除**

「カメラ割り当て」リストで削除するネットワークカメラを選択して、[削除] ボタンをクリックすると、リストから削除されます。

⑪ **▲ ▼ (カメラ割り当て入れ替え)**

「カメラ割り当て」リストでネットワークカメラを選択して、[▲][▼] ボタンをクリックすると、カメラ割り当て位置が変更されます。

⑫ **適用**

すべてのビューの設定内容が保存されます。

⑬ **削除**

選択しているビューを削除します。

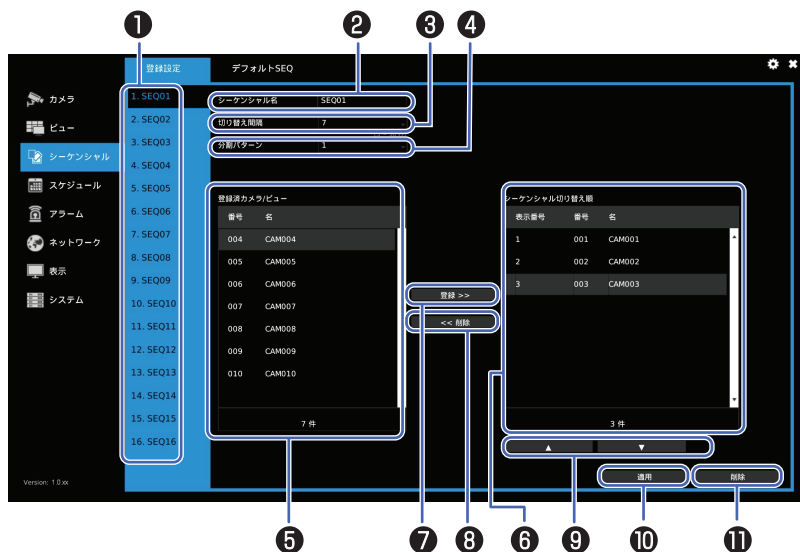
設定(つづき)

カメラビューの表示順序を設定する(シーケンシャル設定)

登録設定

[ビュー]設定で登録したビューやデフォルトビュー、カメラを一定時間おきに切り替えて表示する(シーケンシャル)設定ができます。シーケンシャル表示できるビューは同じ分割パターンのビューのみです。シーケンシャルに登録するネットワークカメラまたはビューを[登録済カメラ/ビュー]リスト(⑤)から選択して[登録]ボタン(⑦)を押します。ネットワークカメラまたはビューが、表示番号1から順番に登録されて[シーケンシャル切り替え順]リストに表示されます。

[シーケンシャル切り替え順]リストの順番は[▲][▼]ボタン(⑨)で変更できます。



- ① シーケンシャルリスト(シーケンシャル番号、シーケンシャル名)
登録するシーケンシャル番号を選択します。
- ② シーケンシャル名
シーケンシャルの名称を入力します。半角 32 文字、日本語(全角) 16 文字まで入力できます。日本語は、日本語入力ツールを使用して PC から入力します。(P.50)
- ③ 切り替え間隔
シーケンシャルを切り替える間隔を 5~30 秒の間で設定します。
- ④ 分割パターン
分割パターンを 1、4、6、9、12、16 分割から選択します。

- ⑤ 登録済カメラ/ビュー
本機に登録済みのネットワークカメラまたはビューが表示されます。
- ⑥ シーケンシャル切り替え順
シーケンシャルに登録されたネットワークカメラまたはビューが表示されます。
- ⑦ 登録
[登録済カメラ/ビュー]リストでシーケンシャルに登録するネットワークカメラまたはビューを選択して[登録]ボタンをクリックすると、表示番号1から順番に登録されて、「シーケンシャル切り替え順」に表示されます。

(次ページへつづく)

8 削除

「シーケンシャル切り替え順」リストで削除するネットワークカメラまたはビューを選択して、[削除]ボタンをクリックすると、リストから削除されます。

9 ▲ ▼ (シーケンシャル切り替え順入れ替え)

「シーケンシャル切り替え順」リストでカメラまたはビューを選択し、[▲] [▼]で入れ替えることができます。

10 適用

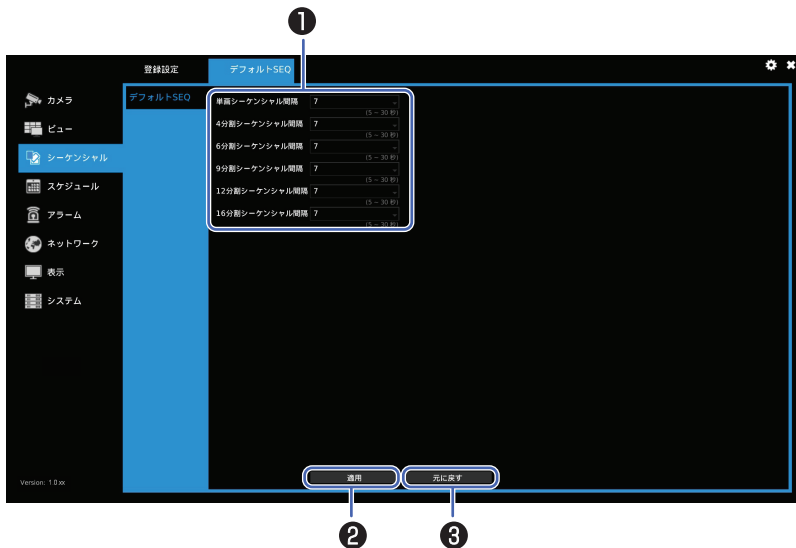
すべてのシーケンシャルの設定内容が保存されます。

11 削除

選択しているシーケンシャルを削除します。

デフォルト SEQ(デフォルトシーケンシャル設定)

カメラを登録すると自動的に設定されるシーケンシャルをデフォルトシーケンシャルと呼びます。デフォルトシーケンシャルは、カメラ番号順に単画面および、4分割、6分割、9分割、12分割、16分割の各分割パターンで設定され、起動時に表示したり、スケジュールに登録したりできます。



1 デフォルトシーケンシャル設定

単画面、4分割、6分割、9分割、12分割、16分割のシーケンシャル間隔を秒単位で設定します。設定できる間隔は5～30秒です。

2 適用

入力した設定が保存されます。

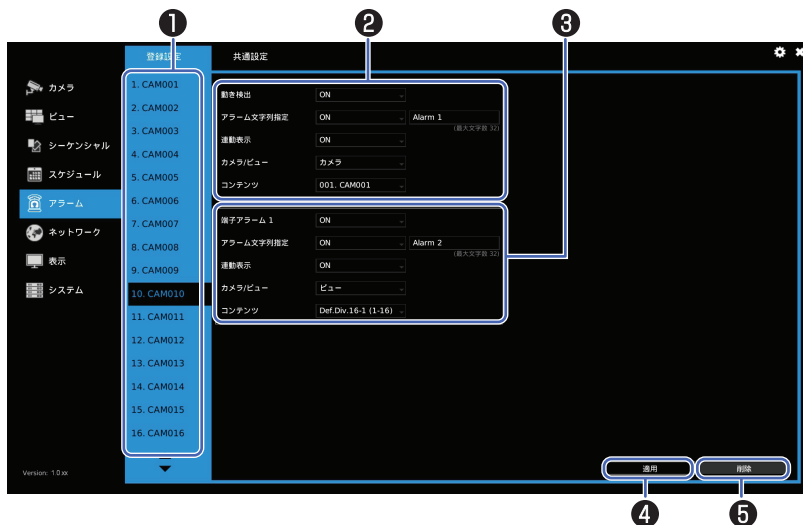
3 元に戻す

入力した設定を元に戻します。

アラーム受信時の動作を設定する(アラーム設定)

アラーム設定では、カメラからのアラームを受信してモニターに表示するときの設定を行います。アラーム設定は、JVCのカメラにのみ有効です。

登録設定



① カメラリスト

アラームを設定するカメラ番号を選択します。「カメラ設定」で登録されたカメラ番号のネットワークカメラにアラームが設定されます。

② 動き検出

ネットワークカメラ/ネットワークエンコーダーの動き検出機能によってアラーム信号を受信したときの動作を設定する場合は、[ON]に設定します。

● アラーム文字列指定

アラーム受信時に文字を表示する場合は「アラーム文字列指定」を[ON]にします。「アラーム文字列指定」を[ON]にすると、右の「文字列」に入力できるようになります。

● 文字列

アラーム文字列を入力します。半角 32 文字、日本語(全角) 16 文字まで入力できます。日本語は、日本語入力ツールを使用して PC から入力します。(P.50)

● 連動表示

アラーム受信時にモニター表示を切り替える場合は、「連動表示」を[ON]にします。「カメラ/ビュー」で表示するコンテンツのタイプを「カメラ」または「ビュー」から選択します。「コンテンツ」で切り替えるネットワークカメラ、またはビューの種類を選択します。

③ 端子アラーム 1~4

ネットワークカメラ/ネットワークエンコーダーのアラーム端子からアラーム信号を受信したときの動作を設定する場合は、[ON]に設定します。

● アラーム文字列指定

アラーム受信時に文字を表示する場合は「アラーム文字列指定」を[ON]にします。「アラーム文字列指定」を[ON]にすると、右の「文字列」に入力できるようになります。

(次ページへつづく)

設定 (つづき)

- 文字列
アラーム文字列を入力します。半角 32 文字、日本語(全角) 16 文字まで入力できます。日本語は、日本語入力ツールを使用して PC から入力します。(P.50)
- 連動表示
アラーム受信時にモニター表示を切り替える場合は、「連動表示」を[ON]にします。「カメラビュー」で表示するコンテンツのタイプを[カメラ]または[ビュー]から選択します。「コンテンツ」で切り替えるネットワークカメラ、またはビューの種類を選択します。
- ④ 適用
すべてのネットワークカメラのアラーム設定を適用します。
- ⑤ 削除
選択中のネットワークカメラのアラーム設定を削除します。

メモ:

- VN-E4B など、複数のビデオチャンネルを持つカメラの場合、各ビデオチャンネルはアラーム端子を共有します。複数のビデオチャンネルで同一の端子アラームを ON にした場合、若いビデオチャンネル番号のアラームのみ動作します。

カメラのアラーム設定をする

アラームを使用する場合、カメラ本体側でアラームの設定が必要です。カメラ本体の Web 設定で[詳細設定] (または[周辺制御]) - [アラーム] を表示し、次の例を参考に設定してください。

例) No.01 に「アラーム入力 1」、No.02 に「アラーム入力 2」、No.03 に「動き検出」を設定する場合

■ No.01

アクション	UDP 通知
条件 1	入力 1 メイク/ブレイク(どちらかを選択)
TCP/UDP IP アドレス	本機の IP アドレス
TCP/UDP ポート番号	本機の[ネットワーク]-[UDP 通知ポート]で設定されているポート番号 1~65535(工場出荷設定:20000)
TCP/UDP 通知データ	「T01_<メッセージ>」のように指定します。 T01_:「アラーム入力 1」を表す固定データ <メッセージ>:アラームの編集画面で [アラーム文字列の指定] が [OFF] の場合に、モニターに表示するアラーム文字列

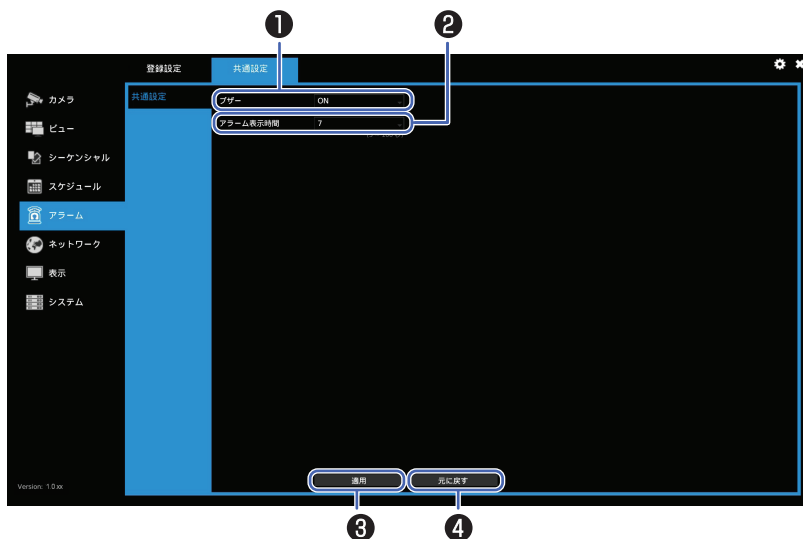
■ No.02

アクション	UDP 通知
条件 1	入力 2 メイク/ブレイク(どちらかを選択)
TCP/UDP IP アドレス	本機の IP アドレス
TCP/UDP ポート番号	本機の[ネットワーク]-[UDP 通知ポート]で設定されているポート番号 1~65535(工場出荷設定:20000)
TCP/UDP 通知データ	「T02_<メッセージ>」のように指定します。 T02_:「アラーム入力 2」を表す固定データ <メッセージ>:アラームの編集画面で [アラーム文字列の指定] が [OFF] の場合、モニターに表示するアラーム文字列

■ No.03

アクション	UDP 通知
条件 1	動き検出
TCP/UDP IP アドレス	本機の IP アドレス
TCP/UDP ポート番号	本機の[ネットワーク]-[UDP 通知ポート]で設定されているポート番号 1~65535(工場出荷設定:20000)
TCP/UDP 通知データ	「M01_<メッセージ>」のように指定します。 M01_:[動き検出]を表す固定データ <メッセージ>:アラームの編集画面で[アラーム文字列の指定]が[OFF]の場合に、モニターに表示するアラーム文字列 VN-E4B をご使用の場合は、「入力 2~4」の動き検出は、以下のように指定してください。 入力 2: M02_<メッセージ> 入力 3: M03_<メッセージ> 入力 4: M04_<メッセージ>

共通設定



① ブザー

アラーム動作時にブザーを鳴らす場合は[ON]にします。
ブザーは、アラームを受信した後 5 秒間鳴ります。

② アラーム表示時間

アラームを表示する時間を[5]~[100]秒の間で秒単位で設定するか、または[無制限]に設定します。

アラーム表示は、画面操作を行うと、アラーム表示時間設定にかかわらず解除されます。

③ 適用

入力した設定が保存されます。

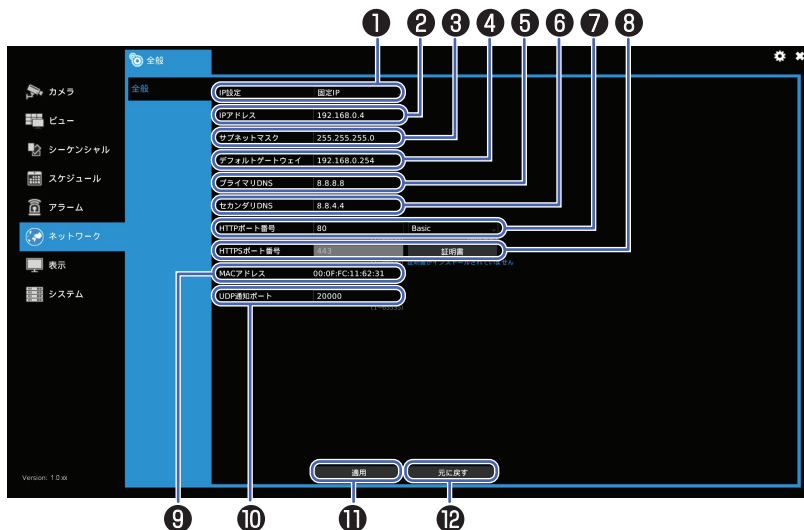
④ 元に戻す

入力した設定を元に戻します。

設定 (つづき)

ネットワークを設定する(ネットワーク設定)

本機のネットワークの設定を行います。



1 IP 設定

IP アドレスを [固定 IP] または [DHCP] (自動設定) から選択します。[固定 IP] を選択すると [IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]、[プライマリ DNS]、[セカンダリ DNS] の設定が有効になります。

2 IP アドレス

[IP 設定] で [固定 IP] を選択した場合、使用する IP アドレスを入力します。

3 サブネットマスク

[IP 設定] で [固定 IP] を選択した場合、使用するサブネットマスクを入力します。

4 デフォルトゲートウェイ

[IP 設定] で [固定 IP] を選択した場合、使用するデフォルトゲートウェイを入力します。

5 プライマリ DNS

[IP 設定] で [固定 IP] を選択した場合、使用するプライマリ DNS を入力します。

6 セカンダリ DNS

[IP 設定] で [固定 IP] を選択した場合、使用するセカンダリ DNS を入力します。

7 HTTP ポート番号

使用する HTTP ポート番号を入力し、HTTP 認証を [None]、[Basic]、[Digest] から選択します。

8 HTTPS ポート番号

[証明書] ボタンを押して、証明書を入力し、使用する HTTPS ポート番号を入力します。

9 MAC アドレス

本機の MAC アドレスが表示されます。

10 UDP 通知ポート

カメラから通知される UDP アラームを受信するポート番号を入力します。カメラ側のアラーム設定の UDP 通知先で本機の IP アドレスおよびここで設定するポート番号を設定してください。

11 適用

設定したネットワーク設定を適用します。

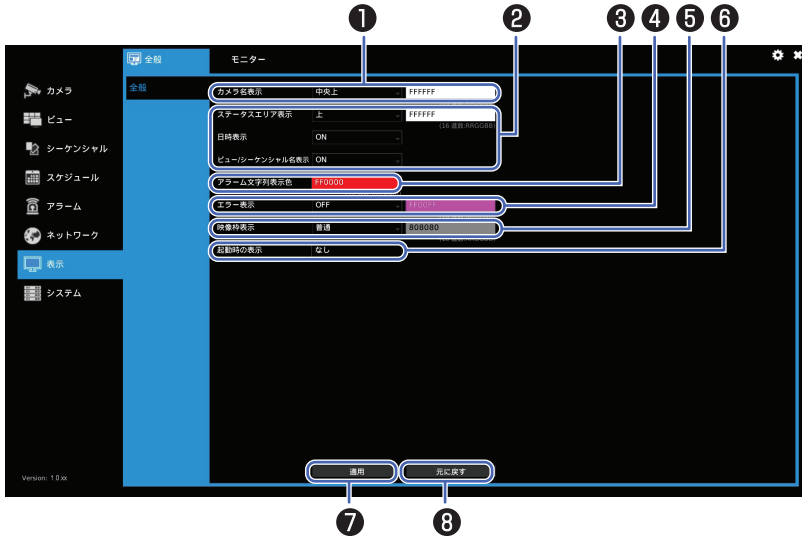
12 元に戻す

設定したネットワーク設定を元に戻します。

画面表示を設定する(表示設定)

全般

カメラ名や映像枠などの色の設定や、起動時に表示するコンテンツを設定することができます。



① カメラ名表示

モニターに表示するカメラ名の位置と色を設定します。表示位置を[OFF]、[左上]、[中央上]、[右上]、[左下]、[中央下]、[右下]から選択できます。

- 色

カメラ名表示の色を設定します。クリックしてカラーパレットから色を選択します。また、16進数のRGB値(RRGGBB)で直接指定することもできます。

② ステータスエリア表示

日時表示やビュー名などの表示位置や色を設定します。表示位置は[OFF]、[上]または[下]から設定できます。[OFF]に設定した場合は、「日時表示」、「ビュー/シーケンシャル名表示」、「色」の設定は無効になります。カメラ名同様、表示色の設定ができます。

- 日時表示

ステータスエリアの日時表示を[ON]または[OFF]から選択します。

- ビュー/シーケンシャル名表示

ステータスエリアのビュー/シーケンシャル名表示を[ON]または[OFF]から選択します。

- 色

ステータスエリア表示の色を設定します。クリックしてカラーパレットから色を選択します。また、16進数のRGB値(RRGGBB)で直接指定することもできます。

③ アラーム文字列表示色

アラーム表示の文字の色を設定します。クリックしてカラーパレットから色を選択します。また、16進数のRGB値(RRGGBB)で直接指定することもできます。

④ エラー表示

エラー表示の設定をします。エラーの表示を[ON]または[OFF]から選択します。

- 色

エラー表示の文字色を設定します。クリックしてカラーパレットから色を選択します。また、16進数のRGB値(RRGGBB)で直接指定することもできます。

(次ページへつづく)

設定 (つづき)

⑤ 映像枠表示

ネットワークカメラ映像の枠の太さを [OFF]、[細い]、[普通] または [太い] から選択します。

- 色
映像枠の色を設定します。クリックしてカラーパレットから色を選択します。また、16進数の RGB 値 (RRGGBB) で直接指定することもできます。

⑥ 起動時の表示

起動時に表示する映像を設定できます。設定欄をクリックすると、ダイアログが表示されます。

- タイプ (ダイアログ)
起動時に表示するコンテンツの種類を [なし]、[カメラ]、[ビュー]、[シーケンシャル] または [スケジュール] から選択します。
- コンテンツ (ダイアログ)
起動時に表示するコンテンツを [タイプ] で選択した種類の中から選択します。



⑦ 適用

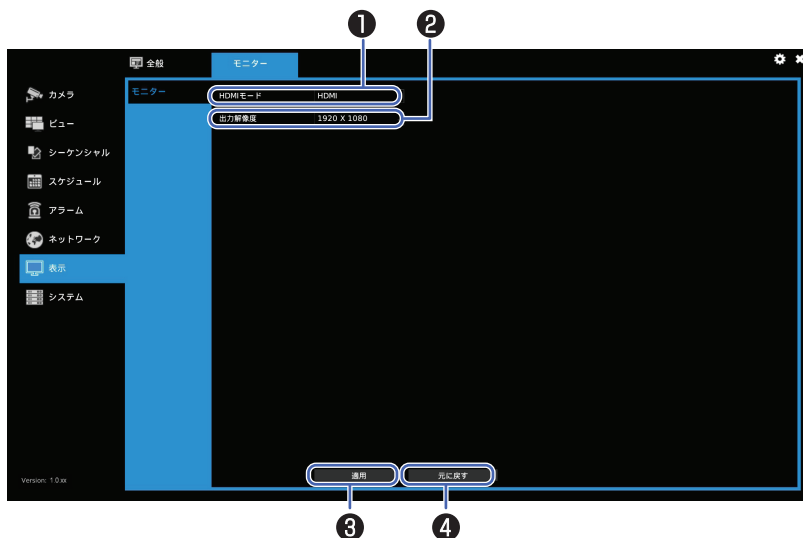
設定を適用します。

⑧ 元に戻す

設定を元に戻します。

モニター

本機の HDMI 端子の出力解像度を設定することができます。



① HDMI モード

接続するモニターにより、[HDMI]または[DVI]を選択します。

メモ：

- HDMI モードと DVI モードについて
本機は HDMI 端子を装備していますので、初期設定である [HDMI] のままお使いください。変換ケーブル等を使用して DVI モニターに接続する場合は [DVI] に設定してください

② 出力解像度

HDMI 端子の出力解像度を設定します。
[3840x2160]、[1920x1080]、[1440x900]、
[1280x1024]または[1024x768]から選択します。

ご注意：

- 出力解像度の設定を変更すると、お使いのモニターによっては設定画面が小さく表示される場合があります。

③ 適用

設定を適用します。

④ 元に戻す

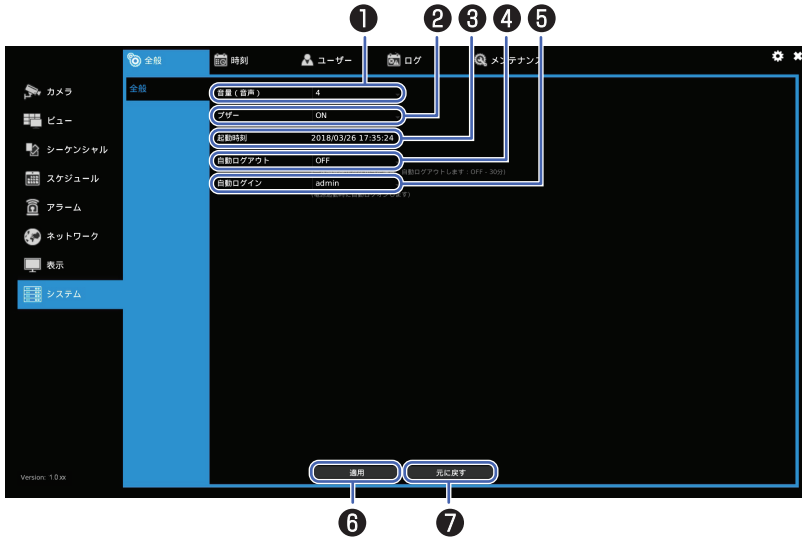
設定を元に戻します。

設定 (つづき)

システムを設定する(システム設定)

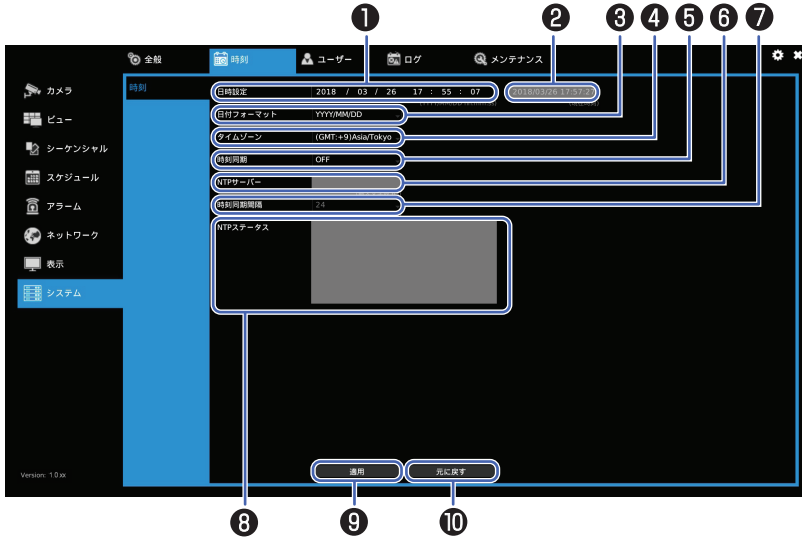
システム設定では、音声出力の音量やアラームのブザーの ON/OFF、時刻設定や起動時に自動的にログインするユーザーの選択、パスワードやログの設定、ファームウェアの更新や設定データのインポート・エクスポートなどを行うことができます。

全般



- 1 音量(音声)**
音量を [OFF]、[1]～[7] から選択します。
- 2 ブザー**
ブザー音を [OFF] または [ON] から選択します。[OFF] に設定すると、アラーム連動で設定されたブザー音も OFF になります。ブザーの音量設定はできません。
- 3 起動時刻**
起動した時刻を表示します。
- 4 自動ログアウト**
一定時間操作が行われない場合に自動的にログアウトする時間を [OFF]、[1]～[30] 分から設定します。[OFF] に設定した場合は自動ログアウトされません。
- 5 自動ログイン**
起動時にログインするユーザーを [OFF]、[admin]、[operator] から選択します。[OFF] に設定した場合は自動ログインされません。
- 6 適用**
設定を適用します。
- 7 元に戻す**
設定を元に戻します。

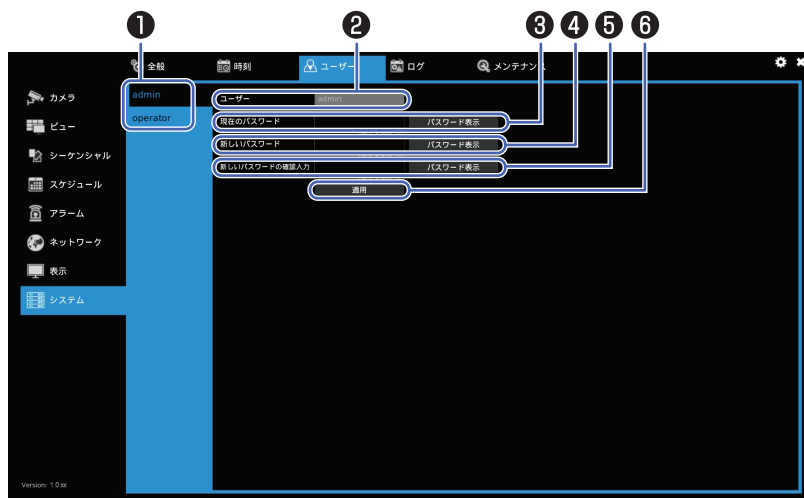
時刻



- 1 日時設定**
日時を入力して、日時設定を手動で行うことができます。
- 2 現在時刻**
現在の設定時刻を表示します。
- 3 日時フォーマット**
年、月、日の表示形式を [YYYY/MM/DD]、[MM/DD/YYYY]、[DD/MM/YYYY] から選択します。「YYYY」は年、「MM」は月、「DD」は日を表しています。
- 4 タイムゾーン**
使用するタイムゾーンを選択します。
通常は [(GMT:+9)Asia/Tokyo] のまま変更しないでください。
- 5 時刻同期**
時刻の同期方法を [OFF] または [NTP] から選択します。NTP サーバーで時刻を同期する場合は [NTP] を選択してください。
- 6 NTP サーバー**
「時刻同期」が [NTP] に設定されている場合、使用する NTP サーバーのアドレスを入力します。
- 7 時刻同期間隔**
「時刻同期」が [NTP] に設定されている場合、時刻を同期する間隔を [1]、[4] または [24] から選択します。
- 8 NTP ステータス**
「時刻同期」が [NTP] に設定されている場合、同期状態を表示します。
- 9 適用**
設定を適用します。
- 10 元に戻す**
設定を元に戻します。

設定 (つづき)

ユーザー



① ユーザー種別

パスワードを設定するユーザーを[admin]または[operator]から選択します。

② ユーザー

設定するユーザー種別を表示します。

③ 現在のパスワード

現在のパスワードを入力します。[パスワード表示]をクリックすると入力した文字が表示されます。
工場出荷設定は「jvc」です。

④ 新しいパスワード

新しく設定するパスワードを入力します。設定できるパスワードは英数字記号で半角 32 文字までです。[パスワード表示]をクリックすると入力した文字が表示されます。
次の文字はパスワードに使用できません。
`~=@\$%&'/*|!:"

⑤ 新しいパスワードの確認入力

新しく設定するパスワードをもう一度入力します。[パスワード表示]をクリックすると入力した文字が表示されます。

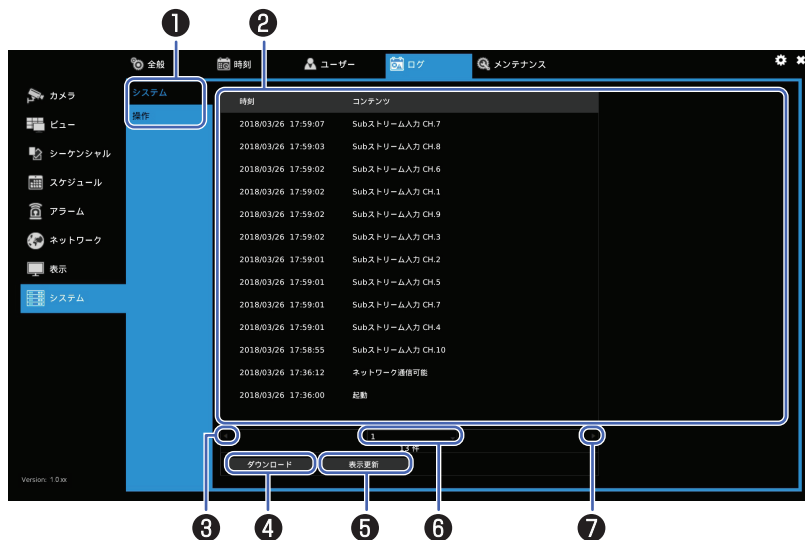
⑥ 適用

設定を適用します。

パスワードについて

- 工場出荷時のパスワードは、広く公開されているため変更せずに使用していると大変危険です。容易に推測されない文字と数字を組み合わせたパスワードに設定してください。また、パスワードは、定期的に変更してください。
- パスワードを忘れた場合、有償にて対応いたしますので、お買い上げの販売店または業務用修理窓口までお問い合わせください。

ログ



① ログ種別

表示するログを[システム]または[操作]から選択します。

② ログ一覧

選択した種類のログの一覧を表示します。

③ ◀

クリックすると前のページを表示します。

④ ダウンロード

クリックするとログを USB メモリーに保存します。

ご注意：

- ダウンロードを実行する前に本機のシリアル端子に USB メモリーを接続してください。
- FAT32 でフォーマットされた USB メモリーを使用してください。
- USB メモリーを接続しないと、ログをダウンロードできません。

⑤ 表示更新

クリックするとログ一覧の表示を更新します。

⑥ ページ

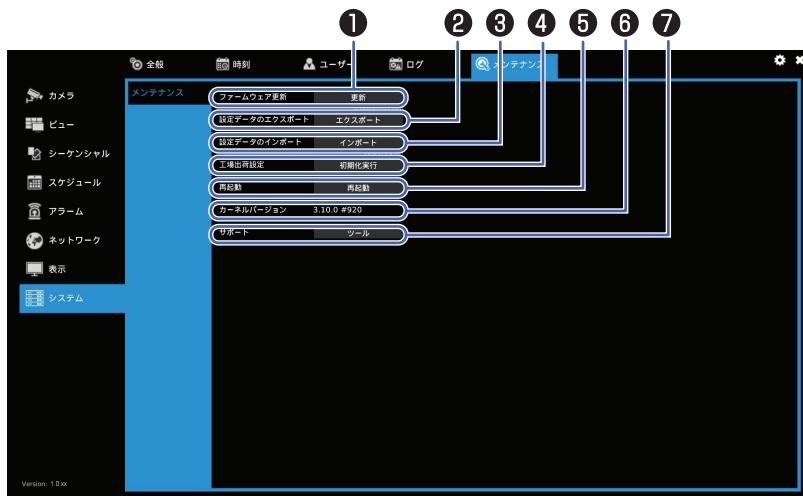
表示したいログ一覧のページをプルダウンで選択します。

⑦ ▶

クリックすると次のページを表示します。

設定 (つづき)

メンテナンス



① ファームウェア更新

USB メモリーに保存されているファームウェアで本機のファームウェアを更新することができます。ファームウェアの更新につきましては、お買い上げ販売店またはサービス窓口にご相談ください。

② 設定データのエクスポート

クリックすると確認ダイアログが開きます。ダイアログで[OK]をクリックすると現在の本機の設定情報を USB メモリーに保存します。

③ 設定データのインポート

クリックすると確認ダイアログが開きます。ダイアログで[OK]をクリックすると USB メモリーに保存されている設定情報を本機へインポートし、設定を復元します。設定データをインポートした後、本機を再起動してください。

ご注意：

- エクスポート/インポートを実行する前に本機のシリアル端子に USB メモリーを接続してください。
- FAT32 でフォーマットされた USB メモリーを使用してください。

④ 工場出荷設定

クリックすると確認ダイアログが開きます。ダイアログで[OK]をクリックするとすべての設定を工場出荷時の設定に戻します。工場出荷設定では、パスワードや IP アドレスも初期化されます。

⑤ 再起動

クリックすると確認ダイアログが開きます。ダイアログで[OK]をクリックするとシステムが再起動されます。

⑥ カーネルバージョン

カーネルのバージョンが表示されます。

⑦ サポート

クリックすると、サポート用のダイアログを開きます。

設定一覧

●は工場出荷設定です。

カメラ – 登録設定 (CAM001～CAM256)

設定項目	設定値/機能
カメラ名	任意の文字列 最大 32 文字、日本語の場合は最大 16 文字
機種名	対応カメラ機種一覧から選ぶ
チャンネル	●1 1～16
IP アドレス	●0.0.0.0 0.0.0.0～223.255.255.255
HTTP ポート番号	●80 1～65535
RTSP ポート番号	●554 1～65535
ユーザー	任意の英数字記号、最大 32 文字
パスワード	任意の英数字記号、最大 32 文字
ストリームプロトコル	●HTTP、RTSP/TCP、RTSP/HTTP、UDP、Multicast
ストリームタイプ	●Single stream、Dual stream
メインストリーム (エンコーダー番号)	●1 1～4
サブストリーム (エンコーダー番号)	●1 1～4
音声	●OFF、ON

設定項目	設定値/機能
RTSP URI	
メインストリーム	任意の英数字記号
サブストリーム	任意の英数字記号
マルチキャスト	
メインストリーム	
IP アドレス(メイン)	224.0.0.0～ 239.255.255.255
ポート番号(メイン)	1～65535
サブストリーム	
IP アドレス(サブ)	224.0.0.0～ 239.255.255.255
ポート番号(サブ)	1～65535
オーディオストリーム	
IP アドレス	224.0.0.0～ 239.255.255.255
ポート番号	1～65535
カメラ検索	ネットワーク上のネットワークカメラを検索する
キャンセル	検索を中断する
登録	検索結果のネットワークカメラを登録する
検索結果	検索結果のネットワークカメラをリストに表示する

設定 (つづき)

ビュー – 登録設定 (VIEW01～VIEW64)

設定項目	設定値/機能
ビュー名	任意の文字列最大 32 文字、日本語の場合は最大 16 文字
分割パターン	●4、6、9、12、16
登録済カメラ (リスト)	「カメラ」メニューで登録したネットワークカメラを表示する
カメラ割り当て (リスト)	a～p (分割パターンにより異なる)
登録 (ボタン)	「登録済カメラ (リスト)」で選択したカメラをビューに登録する
削除 (ボタン)	「カメラ割り当て (リスト)」で選択したカメラをビューから削除する
音声カメラ	a～p または ●OFF

シーケンシャル – 登録設定 (SEQ01～SEQ16)

設定項目	設定値/機能
シーケンシャル名	任意の文字列最大 32 文字、日本語の場合は最大 16 文字
切り替え間隔	●7 秒 5～30 秒
分割パターン	●1、4、6、9、12、16
登録済カメラ/ビュー (リスト)	「カメラ」または「ビュー」メニューで登録したネットワークカメラまたはビューを表示する
シーケンシャル切り替え順 (リスト)	[▲] [▼] で順番を入れ替える
登録 (ボタン)	「登録済カメラ/ビュー (リスト)」で選択したカメラをシーケンシャルに登録する
削除 (ボタン)	「シーケンシャル切り替え順 (リスト)」で選択したカメラをシーケンシャルから削除する

シーケンシャル – デフォルト SEQ

設定項目	設定値/機能
単画シーケンシャル間隔	●7 秒 5～30 秒
4 分割シーケンシャル間隔	●7 秒 5～30 秒
6 分割シーケンシャル間隔	●7 秒 5～30 秒
9 分割シーケンシャル	●7 秒 5～30 秒
12 分割シーケンシャル間隔	●7 秒 5～30 秒
16 分割シーケンシャル間隔	●7 秒 5～30 秒

スケジュール – 登録設定

設定項目	設定値/機能
登録設定	月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日
カメラ ビュー シーケンシャル	スケジュールに割り当てるコンテンツを表示
なし	設定したスケジュールを取り消す

アラーム – 登録設定(CAM001～CAM256)

設定項目	設定値/機能
動き検出	ON、●OFF
アラーム文字列指定	ON、●OFF
文字列	任意の文字列最大 32 文字、日本語 16 文字
連動表示	ON、●OFF
カメラ/ビュー	●カメラ、ビュー
コンテンツ	Content
端子アラーム 1～4	ON、●OFF
アラーム文字列指定	ON、●OFF
文字列	任意の文字列最大 32 文字、日本語 16 文字
連動表示	ON、●OFF
カメラ/ビュー	●カメラ、ビュー
コンテンツ	Content

アラーム – 共通設定

設定項目	設定値/機能
ブザー	●ON、OFF
アラーム表示時間	●7 秒 5～100 秒、無制限

ネットワーク – 全般

設定項目	設定値/機能
IP 設定	●固定 IP、DHCP
IP アドレス	●192.168.0.4 0.0.0.0～223.255.255.255
サブネットマスク	●255.255.255.0 0.0.0.0～255.255.255.255
デフォルトゲートウェイ	●192.168.0.254 0.0.0.0～223.255.255.255
プライマリ DNS	●8.8.8.8 0.0.0.0～223.255.255.255
セカンダリ DNS	●8.8.4.4 0.0.0.0～223.255.255.255
HTTP ポート番号	●80 1～65535
HTTP 認証	None、●Basic、Digest
HTTPS ポート番号	●443 1～65535
証明書	
国コード	英数字 2 文字 (例: 日本の場合は「JP」)
都道府県名	英数字 64 文字
市区町村名	英数字 64 文字
組織名	英数字 64 文字
部署名	英数字 64 文字
ホスト名	英数字 64 文字
有効期限	1～3650
自己証明書の生成(ボタン)	—
署名リクエストの作成(ボタン)	—
署名リクエストのエクスポート(ボタン)	—
サーバー証明書のインポート(ボタン)	—
MAC アドレス	—
UDP 通知ポート	●20000 1～65535

設定 (つづき)

表示 - 全般

設定項目	設定値/機能
カメラ名表示	OFF、左上、●中央上、右上、 左下、中央下、右下
色	●FFFFFF(白) 000000~FFFFFF
ステータスエリア表示	OFF、●上、下
日時表示	●ON、OFF
ビュー/シーケンシャル名表示	●ON、OFF
色	●FFFFFF(白) 000000~FFFFFF
アラーム文字列表示色	●FF0000(赤) 000000~FFFFFF
エラー表示	ON、●OFF
色	●FF00FF(紫) 000000~FFFFFF
映像枠表示	OFF、細い、●普通、太い
色	●808080(灰) 000000~FFFFFF
起動時の表示	
タイプ	●なし、カメラ、ビュー、シーケンシャル、スケジュール
コンテンツ	Content

表示 - モニター

設定項目	設定値/機能
HDMI モード	●HDMI、DVI
出力解像度	3840x2160、●1920x1080、 1440x900、1280x1024、 1024x768

システム - 全般

設定項目	設定値/機能
音量(音声)	●4 OFF、1~7
ブザー	OFF、●ON
起動時刻	—
自動ログアウト	●OFF、1~30分
自動ログイン	OFF、●admin、operator

システム - 時刻

設定項目	設定値/機能
日時設定	時刻設定ページを開いた時刻を表示する
現在時刻	—
日付フォーマット	●YYYY/MM/DD、MM/DD/YYYY、DD/MM/YYYY
タイムゾーン	●(GMT:+9)Asia/Tokyo (GMT:-11)~(GMT:+14)
時刻同期	●OFF、NTP
NTP サーバー	—
時刻同期間隔	1、4、●24 時間
NTP ステータス	—

システム - ユーザー

設定項目	設定値/機能
ユーザー	admin、operator
現在のパスワード	任意の英数字記号、最大 32 文字 初期値: [jvc]
新しいパスワード	任意の英数字記号、最大 32 文字 (`-=[\`¥:;/\} :~" は使用不可)
新しいパスワードの確認入力	任意の英数字記号、最大 32 文字

システム - ログ

設定項目	設定値/機能
システム	システムログを一覧表示する
操作	操作ログを一覧表示する

システム – メンテナンス

設定項目	設定値/機能
ファームウェア更新(ボタン)	—
設定データのエキスポート(ボタン)	—
設定データのインポート(ボタン)	—
工場出荷設定(ボタン)	—
再起動(ボタン)	—
カーネルバージョン	—
サポート(ボタン)	—

設定名を日本語に編集する（日本語入力ツール）

日本語入力ツールについて

カメラ名やビュー名、シーケンシャル名などは、PCを使って日本語を入力することができます。日本語を入力するには、日本語入力ツールが必要です。日本語入力ツールはインターネットからダウンロードしてください。

動作環境

OS

Windows 7 Pro(x86 or x64)
Windows 8.1 Pro(x64)
Windows 10 Pro(x64)

モニター解像度

1024 x 768 以上

その他

Microsoft .NET Framework 4.6

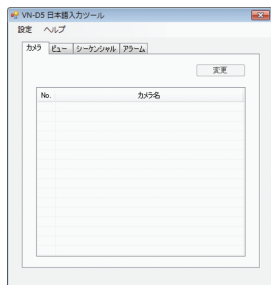
ダウンロード

下記ホームページからダウンロードしてください。

http://www3.jvckenwood.com/pro/soft_dl/vn-d5_software/

編集の流れ

VN-D5 日本語入力ツールを起動すると「カメラ」タブが選択され、カメラ名の編集画面が表示されます。



設定名を日本語に編集するには本機から設定データを読み込む必要があります。
日本語入力ツールの編集の流れは 2 通りあります。

■ 本機と PC が同一ネットワーク上で接続されている場合
設定データを直接編集できます。

本機の設定データを日本語入力ツールに読み込む
☞「本機の設定データの読み出し(エクスポート)(P.52)」

読み込んだカメラ名やビュー名などを日本語に編集する
☞「日本語に編集する(P.52)」

編集した設定データを本機へ反映する
☞「本機へ設定データを反映する(インポート)(P.54)」

■ 本機と PC が同一ネットワーク上で接続されていない場合
設定データを USB メモリーを介して編集できます。

本機の設定データを USB メモリーにエクスポートする
☞「設定データのエクスポート(P.44)」

日本語入力ツールを使う PC に USB メモリーを接続し、設定データを読み出す。
☞「設定ファイルからの読み出し(P.52)」

読み込んだカメラ名やビュー名などを日本語に編集する
☞「日本語に編集する(P.52)」

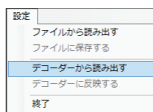
編集した設定データを USB メモリーに保存する
「設定ファイルの保存(P.54)」で保存した xml ファイルを、firmware という名前のフォルダを作成し、このフォルダに入れてから USB メモリーに保存してください。
☞「設定ファイルの保存(P.54)」

USB メモリーから本機へインポートする
☞「設定データのインポート(P.44)」

設定名を日本語に編集する（日本語入力ツール）（つづき）

本機の設定データの読み出し（エクスポート）

- 1 「設定」メニューで[デコーダーから読み出す]を選択する



- 「デコーダー入力」画面が表示されます。

- 2 接続するデコーダーの[IP アドレス]、[ポート番号]、admin の[パスワード]を入力する



- 3 [OK]をクリックする

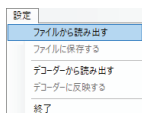


- 日本語入力ツールに設定されている名称が読み込まれます。

設定ファイルからの読み出し

日本語入力ツールを使って保存した設定ファイルがある場合は、その設定ファイルから読み込むこともできます。(P.54)

- 1 「設定」メニューで[ファイルから読み出す]を選択する



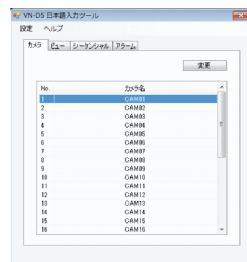
- 2 ファイルを指定するダイアログで保存されているファイルを指定する

- 日本語入力ツールに設定されている名称が読み込まれます。

日本語に編集する

カメラ名

- 1 [カメラ]タブを選択する
- 2 名称を変更するセルを選択して、[変更]をクリックする



- 「カメラ名変更」画面が表示されます。
- 名称を変更するセルをダブルクリックしても「カメラ名変更」画面が表示されます。

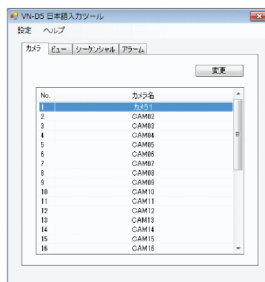
- 3 [カメラ名]を編集する

- 半角で 32 文字、全角(日本語)で 16 文字まで入力できます。



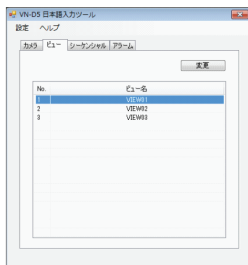
- 4 [OK]をクリックする

- カメラ名が変更されます。



ビュー名

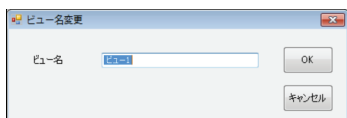
- 1 [ビュー]タブを選択する
- 2 名称を変更するセルを選択して、[変更]をクリックする



- 「ビュー名変更」画面が表示されます。
- 名称を変更するセルをダブルクリックしても「ビュー名変更」画面が表示されます。

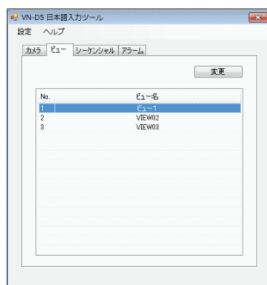
3 [ビュー名]を編集する

- 半角で 32 文字、全角(日本語)で 16 文字まで入力できます。



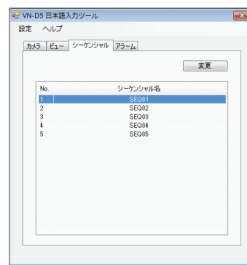
4 [OK]をクリックする

- ビュー名が変更されます。



シーケンシャル名

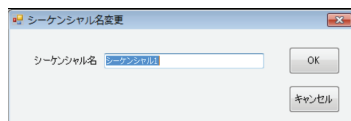
- 1 [シーケンシャル]タブを選択する
- 2 名称を変更するセルを選択して、[変更]をクリックする



- 「シーケンシャル名変更」画面が表示されません。
- 名称を変更するセルをダブルクリックしても「シーケンシャル名変更」画面が表示されません。

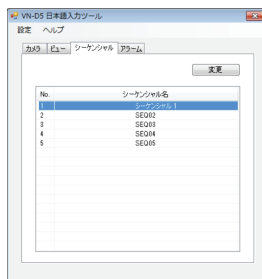
3 [シーケンシャル名]を編集する

- 半角で 32 文字、全角(日本語)で 16 文字まで入力できます。



4 [OK]をクリックする

- シーケンシャル名が変更されます。

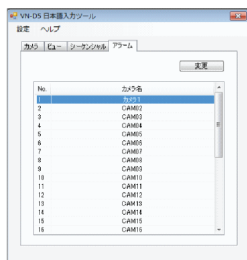


設定名を日本語に編集する（日本語入力ツール）（つづき）

アラーム文字列名

アラーム名称は、本機の設定ページで「アラーム入力」と「アラーム文字列指定」が「ON」に設定されていないと編集できません。本機の「アラーム入力」と「アラーム文字列指定」を「ON」にしてから編集してください。(P.33)

- 1 「アラーム」タブを選択する
- 2 名称を変更するセルを選択して、「変更」をクリックする



- 「アラーム文字列変更」画面が表示されます。
 - 名称を変更するセルをダブルクリックしても「アラーム文字列変更」画面が表示されます。
- 3 「アラーム文字列名」を編集する
 - 4 「動き検出を使用する」、「アラーム端子 1」、「アラーム端子 2」、「アラーム端子 3」、「アラーム端子 4」の「アラーム文字列指定」でそれぞれ必要な箇所を編集する
 - 半角で 32 文字、全角(日本語)で 16 文字まで入力できます。

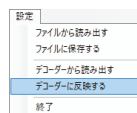


- 5 「OK」をクリックする
 - アラーム文字列名が変更されます。

本機へ設定データを反映する（インポート）

名称の編集が終わったら、データを本機へ反映します。反映するまで本機での名称は変更されません。

- 1 「設定」メニューから「デコーダーに反映する」を選択する

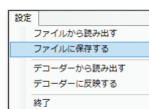


- 2 接続するデコーダーの「IP アドレス」、「ポート番号」、admin の「パスワード」を入力する
- 3 「OK」をクリックする
 - 編集した名称が本機に反映されます。

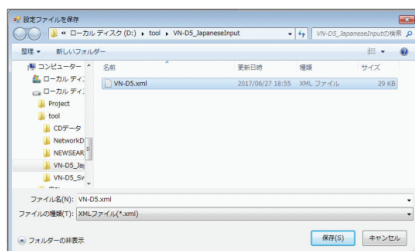
設定ファイルの保存

編集した名称の設定ファイルを PC へ保存することもできます。

- 1 「設定」メニューから「ファイルに保存する」を選択する



- 「設定ファイル保存」ダイアログが表示されます。
- 2 任意の場所を指定して「保存」をクリックする



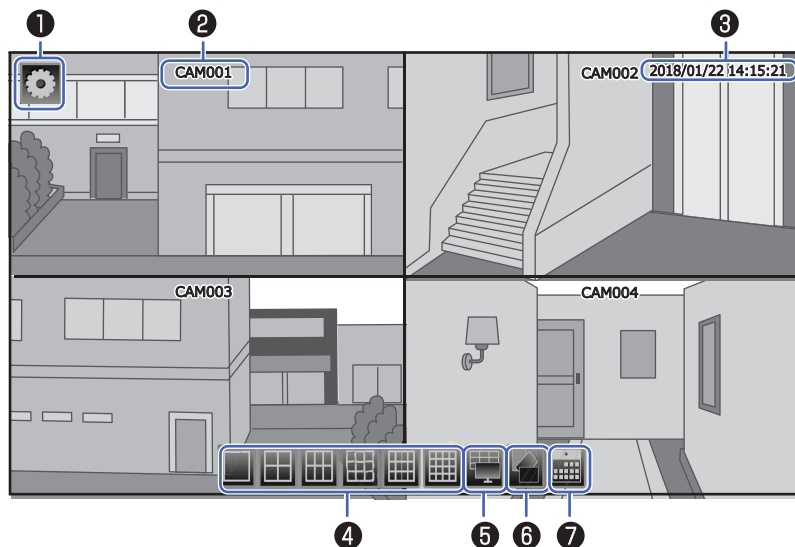
- 設定ファイルが保存されます。

保存した設定ファイルは「設定」メニューから「ファイルから読み出す」を選択して日本語入力ツールに読み出すことができます。(P.52)

カメラの映像を見る (ライブ画面)

ライブ画面

本機を起動するとネットワークカメラのライブ映像が表示されます。「設定」→「システム」→「全般」→「自動ログイン」が[OFF]になっている場合、[admin]もしくは[operator]でログインしないとマウス操作ができません。表示画面切り替えや設定を行うにはログインしてください。(P.56)



① 設定ボタン(P.18)

[admin]ログイン時、クリックすると設定ページが表示されます。

② カメラ名/ビュー名

モニターに表示中のネットワークカメラまたはビュー名が表示されます。

③ 日時(P.22)

現在の日付・時刻が表示されます。

④ デフォルトビューボタン

カメラを登録すると自動的に設定されるビューをデフォルトビューと呼びます。単画面、4分割、6分割、9分割、12分割、16分割のそれぞれのボタンをクリックすると、デフォルトビュー選択のプルアップメニューが表示されます。表示するネットワークカメラまたはビューを選択すると、ライブ画面の表示が切り替わります。

デフォルトビューは、カメラ番号順に4分割、6分割、9分割、12分割、16分割の各分割パターンで設定され、起動時に表示したり、スケジュールに登録したりできます。

⑤ 登録ビュー(P.28)ボタン

登録ビューボタンをクリックすると、ビュー選択のプルアップメニューが表示されます。表示するビューを選択するとモニター表示が切り替わります。

⑥ シーケンシャル(P.30)ボタン

シーケンシャルボタンをクリックすると、シーケンシャル選択のプルアップメニューが表示されます。表示するシーケンシャルを選択するとモニターの表示が切り替わります。

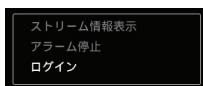
⑦ スケジュール(P.32)ボタン

登録したスケジュールのON/OFFを切り替えます。

カメラの映像を見る（ライブ画面）（つづき）

ログインする

「設定」▶「システム」▶「全般」▶「自動ログイン」が「OFF」になっている場合、または、ログアウトしている場合、ライブ画面上で右クリックして「ログイン」を選択すると、ログインダイアログが表示されます。



メモ：――

- 「ストリーム情報表示」はサービス用です。通常は非表示のままにしてください。
-



ライブ表示のビュー変更などの操作をする場合は [operator] または [admin] でのログインが必要です。設定ページで設定を変更する場合は [admin] でログインが必要です。

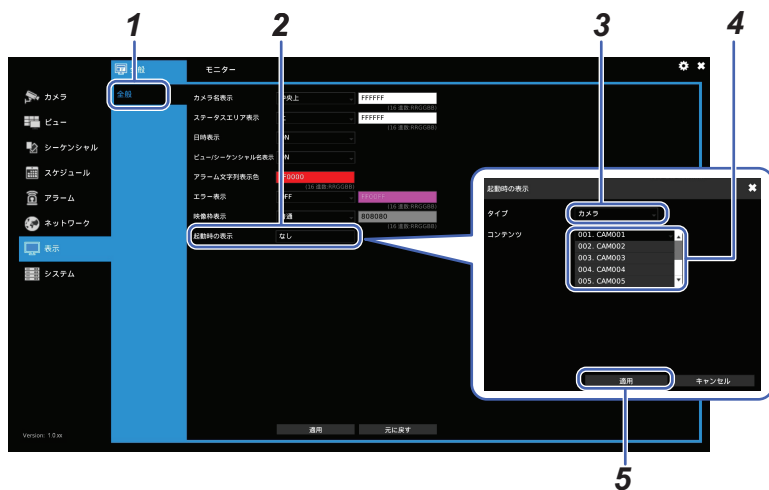
- 1 ログインするユーザー種別を選択する
- 2 パスワードを入力する
- 3 [OK]をクリックする

パスワードについて

- 工場出荷時のパスワードは、広く公開されているため変更せずに使用していると大変危険です。容易に推測されない文字と数字を組み合わせたパスワードに設定してください。また、パスワードは、定期的に変更してください。
- パスワードを忘れた場合、有償にて対応いたしますので、お買い上げの販売店または業務用修理窓口までお問い合わせください。

起動画面について

本機を起動した直後に表示する画面は設定ページで変更することができます。

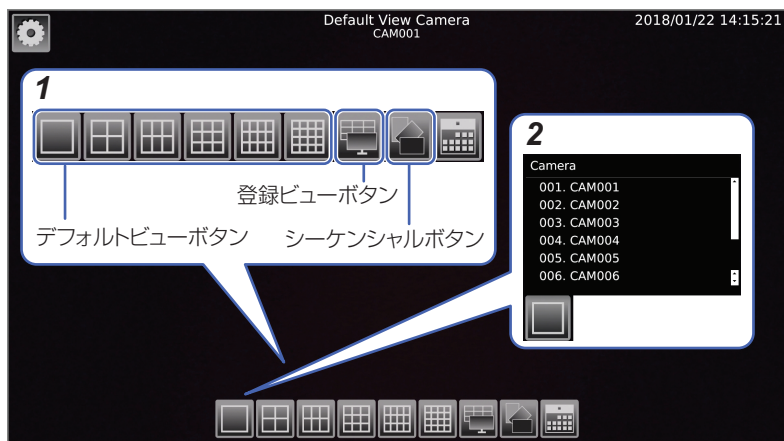


- 1 「表示」⇒「全般」をクリックする
- 2 「起動時の表示」の右側の設定欄をクリックする
• 「起動時の表示」ダイアログが表示されます。
- 3 「タイプ」で起動時に表示したい画面を[カメラ]、[ビュー]、[シーケンシャル]または[スケジュール]から選択する
- 4 「コンテンツ」で表示したいコンテンツを選択する
- 5 「適用」をクリックする

カメラの映像を見る（ライブ画面）（つづき）

モニターを表示を切り替える

ライブ画面では表示しているネットワークカメラの映像を切り替えることができます。マウスを動かすとボタンが表示されます。



- 1 下記の中で切り替えたいモニター表示のボタンをクリックする
 - デフォルトビューボタン
単画面、4分割、6分割、9分割、12分割、16分割でライブ画面を表示できます。
 - 登録ビューボタン
登録したビューから選択して表示できます。
 - シーケンシャルボタン
登録されているシーケンシャルから選択して表示できます。
- 2 プルアップメニューから表示したいコンテンツを選択する

その他

こんなときは

電源が入らない

→電源コードが正しく差し込まれているか確認してください。

→専用 AC アダプターが正しく接続されているか確認してください。

→前面の "POWER" (電源) スイッチが ON になっているか確認してください。

操作ボタンが表示されない

→マウスを動かしてください。

→ログアウト状態では操作ボタンは表示されません。「operator」または「admin」でログインしてください。(P.56)

モニターに映像が表示されない

→モニターの電源が入っていることを確認してください。

→HDMI ケーブルが正しく差し込まれているか確認してください。

→本機の電源を入れたままモニターへの接続を変更すると、本機がそのモニターに対応していない解像度に設定されている場合に映像が表示されません。その場合は電源を入れなおしてください。最適な解像度に再設定されませぬ。

→起動直後や設定後、ライブ画面の下にあるボタンで表示パターンの選択をしないと映像は表示されませぬ。起動直後に自動で映像を表示するためには「起動時の表示」の設定を行なってください。(P.57)

ネットワークカメラを追加で登録したい

→設定ページの「カメラ」から登録できます。(P.26)

起動したときの画面を変更したい

→設定ページの「表示」-「登録設定」-「起動時の表示」で起動時に表示する画面を「カメラ」、「ビュー」、「シーケンシャル」、「スケジュール」から選択できます。(P.37)

ビュー名称などを日本語で入力したい

→PC からツールを使用して入力することができます。(P.50)

表示時間と実際の時間のずれが大きい

→NTP サーバーを使用して日時を設定してください。(P.22)

その他 (つづき)

エラーメッセージ

表示	原因と対応
Connecting	カメラとの接続処理の完了を待っている ➡ 映像が表示されるまで、しばらくお待ちください。
Connection Initialize Failure	カメラとの接続処理に失敗した ➡ ネットワークカメラや本機が正しく接続されているか確認してください。 ➡ ネットワークカメラやスイッチングハブの電源が入っているか確認してください。 ➡ 本機のカメラ登録設定が正しく設定されているか確認してください。 ➡ カメラ側のエンコード設定が正しく設定されているか確認してください。
Authorization Failure	カメラとの接続で認証に失敗した ➡ カメラ登録設定で、ユーザーまたはパスワードが正しく設定されているか確認してください。
Receiving Failure	映像データの受信に失敗した(H.264 以外のデータを受信した) ➡ 本機のカメラ登録設定が正しく設定されているか確認してください。 ➡ カメラ側のエンコード設定が正しく設定されているか確認してください。

Receiving Timeout	映像データが受信できていない ➡ ストリームプロトコルがマルチキャストの場合、カメラ側のマルチキャスト設定が正しく設定され、配信開始されているか確認してください。 ➡ ネットワークカメラや本機が正しく接続されているか確認してください。 ➡ ネットワークカメラやスイッチングハブの電源が入っているか確認してください。 ➡ 本機のカメラ登録設定が正しく設定されているか確認してください。 ➡ カメラ側のエンコード設定が正しく設定されているか確認してください。
Resolution Over Size	受信した映像データの解像度が大きすぎる ➡ カメラ登録設定で、メインストリーム/サブストリームの設定が正しく設定されているか確認してください。 ➡ カメラ側のエンコード設定が正しく設定されているか確認してください。

ソフトウェア使用許諾契約書

株式会社JVCケンウッド・公共産業システム(以下、「ライセンサー」)が提供する本体組み込みソフトウェア(以下、「許諾ソフトウェア」)はライセンサーが著作権を有するか、又は再使用許諾をする権利を有し、本契約はこの「許諾ソフトウェア」に関するお客様のご使用条件を定めたものです。お客様は本件使用許諾契約書の内容にご同意のうえ、この「許諾ソフトウェア」をご使用いただくものと致します。お客様(以下、「使用者」)が「許諾ソフトウェア」を搭載した本製品をご使用された時点で本契約が成立したものと見なされます。なお、許諾ソフトウェアにはライセンサーが第三者より直接的に又は間接的に使用の許諾を受けたソフトウェアが含まれている場合があります。その場合には一部の第三者は本ソフトウェア使用許諾契約書とは別にお客様に対して使用条件を定めております。かかるソフトウェアについては本契約書は適用されませんので別途提示させていただきます「ソフトウェアに関する重要なお知らせ」を必ずご覧ください。

第1条 (総則)

ライセンサーは、許諾ソフトウェアの国内における非独占的かつ譲渡不能な使用权(第3条第1項に定める例外を除く)を使用者に許諾します。

第2条 (使用权)

1. 本契約によって生ずる使用权とは、許諾ソフトウェアを本製品で使用する権利をいいます。
2. 使用者は許諾ソフトウェア及び関連書類の一部若しくは全部を複製、複写、修正、追加、翻訳等の改変、若しくは貸与することができません。
3. 許諾ソフトウェアの使用は私的範囲に限定されるものとし、許諾ソフトウェアは営利目的と否とに関わらずいかなる目的でも頒布、ライセンス、若しくはサブライセンスをすることができません。
4. 使用者は、許諾ソフトウェアを取扱説明書又はヘルプファイルに記載の使用方法に沿って使用するものとし、許諾ソフトウェアの全部又は一部を用いて著作権法等の法規に違反するデータの使用、複製を行ってはならないものとします。

第3条 (許諾条件)

1. 使用者は、本製品を譲渡する場合、内在する許諾ソフトウェア(その関連資料、アップデート版、アップグレード版を含む)の使用权については、自らの手元にオリジナル及び一切の複製物、関連資料を残さない事、又譲受人を本ソフトウェア使用許諾契約に従わせる事を条件に、移転できるものとします。
2. 使用者は許諾ソフトウェアに関し、リバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のコード解析作業を行ってはならないものとします。

第4条 (許諾ソフトウェアの権利)

許諾ソフトウェア及びその関連書類に関する著作権等一切の権利は、ライセンサー又はライセンサーに許諾ソフトウェアの使用权と再許諾権を許諾した原権利者(以下、原権利者)に帰属するものとし、使用者は許諾ソフトウェア及びその関連書類に関して本契約に基づき許諾された使用权以外の権利を有しないものとします。

第5条 (ライセンサーの免責)

1. ライセンサー及び原権利者は、使用者が本契約に基づき許諾された使用权を行使することにより生じた使用者若しくは第三者の損害に関していかなる責任も負わないものとします。但し、これを制限する別途法律の定めがある場合はこの限りではありません。
2. ライセンサーは「許諾ソフトウェア」について商品性、互換性及び特定目的に合致していることを保証致しません。

第6条 (第三者に対する責任)

使用者が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争が生じたときは、使用者自身が自らの費用で解決するものとし、ライセンサー及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第7条 (秘密保持)

使用者は、本契約により提供される許諾ソフトウェア、その関連書類等の情報及び本契約の内容のうち公然と知られていないものについて秘密を保持するものとし、ライセンサーの承諾を得ることなく第三者に開示又は漏洩しないものとします。

その他 (つづき)

第 8 条 (契約の解除)

ライセンサーは、使用者において次の各号の一に該当する事由があるときは、直ちに本契約を解除し、又はそれによって蒙った損害の賠償を使用者に対し請求できるものとします。

- (1) 本契約に定める条項に違反したとき
- (2) 差押、仮差押、仮処分その他強制執行の申立を受けたとき

第 9 条 (許諾ソフトウェアの廃棄)

前条の規定により本契約が解除された場合、使用者は、契約が解除された日から 2 週間以内許諾ソフトウェア、関連書類及びその複製物を廃棄するものとします。

第 10 条 (著作権保護)

1. 許諾ソフトウェアに関する著作権及びその他一切の知的財産権は、ライセンサー及び原権利者に帰属するものでありいかなる権利も使用者が有するものではありません。
2. 使用者は許諾ソフトウェアの使用に際し、著作権及び知的財産権に関連する法律に従うものとします。

第 11 条 (輸出規制)

1. 許諾ソフトウェア及び関連書類等を日本国外に輸出すること(インターネット等を利用した国外送信を含みます)はできないものといたします。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアが日本国及びアメリカ合衆国の輸出に関する規制の対象となることを了承するものとします。
3. 使用者は、本ソフトウェアに適用される一切の国際法及び国内法(アメリカ合衆国の輸出管理規則、アメリカ合衆国、日本国及びその他の政府機関が定めるエンドユーザー、エンドユーザーによる使用及び輸出対象国に関する規制を含みます)に従うことに同意するものとします。

第 12 条 (その他)

1. 本契約の一部が法律によって無効となった場合でも、当該条項以外は有効に存続するものとします。
2. 本契約に定めなき条項若しくは本契約の解釈に疑義を生じた場合には、ライセンサー、使用者は誠意をもって協議し、解決するものとします。
3. ライセンサー及び使用者は、本契約が日本国の法律に準拠し、本契約から生ずる権利義務に関する紛争については、東京地方裁判所をもって第一審の専属管轄裁判所とする事に合意するものとします。

本製品のソフトウェアライセンスについて

本製品に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに株式会社 JVC ケンウッド・公共産業システム又は第三者の著作権が存在します。

本製品は、株式会社 JVC ケンウッド・公共産業システム及び第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメント(以下、「EULA」といいます)に基づくソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、フリーソフトウェアに該当するものがあり、GNU General Public License 又は Lesser General Public License(以下、「GPL/LGPL」といいます)のライセンスに基づき実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするように求めています。当該「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧ください。お願い致します。

ホームページアドレス

<http://www3.jvckenwood.com/download/gpl/index.html>

なお、ソースコードの内容等についてのご質問はお答えし兼ねますので、予めご了承ください。

「GPL/LGPL」の適用を受けない「EULA」に基づくソフトウェアコンポーネント及び株式会社 JVC ケンウッド・公共産業システム自身が開発若しくは作成したソフトウェアコンポーネントは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

「GPL/LGPL」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は、明示かつ黙示であることを問わず一切ありません。適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守しただかなければならない事項等の詳細は、各「GPL/LGPL」をお読みください。本製品に組み込まれた「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用頂く場合は、対応するライセンスをよく読んでから、ご利用くださるようお願い致します。なお各ライセンスは株式会社 JVC ケンウッド・公共産業システム以外の第三者による規定のため、原文(英文)を記載します。

FOSS ライセンス条項

This product includes following software licensed under the GPLv2.
uboot-2010.06, Linux Kernel-3.10, BusyBox-1.24.1, ntpclient-2015_365

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin St, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies
of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, and those permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

その他 (つづき)

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin St, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type 'show w'.
This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type 'show c' for details.

The hypothetical commands 'show w' and 'show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than 'show w' and 'show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program 'Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

=====

This product includes following software licensed under the LGPLv2.
mxml-2.10, libiconv-1.15

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2, June 1991

Copyright (C) 1991 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the library GPL. It is numbered 2 because it goes with version 2 of the ordinary GPL.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Library General Public License, applies to some specially designated Free Software Foundation software, and to any other libraries whose authors decide to use it. You can use it for your libraries, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link a program with the library, you must provide complete object files to the recipients so that they can relink them with the library, after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

Our method of protecting your rights has two steps: (1) copyright the library, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

Also, for each distributor's protection, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free library. If the library is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original version, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that companies distributing free software will individually obtain patent licenses, thus in effect transforming the program into proprietary software. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License, which was designed for utility programs. This license, the GNU Library General Public License, applies to certain designated libraries. This license is quite different from the ordinary one; be sure to read it in full, and don't assume that anything in it is the same as in the ordinary license.

The reason we have a separate public license for some libraries is that they blur the distinction we usually make between modifying or adding to a program and simply using it. Linking a program with a library, without changing the library, is in some sense simply using the library, and is analogous to running a utility program or application program. However, in a textual and legal sense, the linked executable is a combined work, a derivative of the original library, and the ordinary General Public License treats it as such.

その他 (つづき)

Because of this blurred distinction, using the ordinary General Public License for libraries did not effectively promote software sharing, because most developers did not use the libraries. We concluded that weaker conditions might promote sharing better.

However, unrestricted linking of non-free programs would deprive the users of those programs of all benefit from the free status of the libraries themselves. This Library General Public License is intended to permit developers of non-free programs to use free libraries, while preserving your freedom as a user of such programs to change the free libraries that are incorporated in them. (We have not seen how to achieve this as regards changes in header files, but we have achieved it as regards changes in the actual functions of the Library.) The hope is that this will lead to faster development of free libraries.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, while the latter only works together with the library.

Note that it is possible for a library to be covered by the ordinary General Public License rather than by this special one.

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Library General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also compile or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- c) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- d) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

その他 (つづき)

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Library General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY; TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW, EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

Appendix: How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Library General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Library General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Library General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

=====
This product includes following software licensed under the LGPLv2.1
Qt-4.8.2, GLIBC-2.16
=====

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

その他 (つづき)

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional; if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. The work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then recompile to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW, EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

その他 (つづき)

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a double license, i.e. both the conditions of the OpenSSL license and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

```
/*
=====
* Copyright (c) 1998-2017 The OpenSSL Project. All rights reserved.
*
* Redistribution and use in source and binary forms, with or without
* modification, are permitted provided that the following conditions
* are met:
*
* 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
* notice, this list of conditions and the following disclaimer.
*
* 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
* notice, this list of conditions and the following disclaimer in
* the documentation and/or other materials provided with the
* distribution.
*
* 3. All advertising materials mentioning features or use of this
* software must display the following acknowledgment:
* "This product includes software developed by the OpenSSL Project
* for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
*
* 4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to
* endorse or promote products derived from this software without
* prior written permission. For written permission, please contact
* openssl-core@openssl.org.
*
* 5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL"
* nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written
* permission of the OpenSSL Project.
*
* 6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following
* acknowledgment:
* "This product includes software developed by the OpenSSL Project
* for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

```

```
* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY
* EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
* IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
* PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
* ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
* SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
* NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
* LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
* HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
* STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
* ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
* OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

```

```

* This product includes cryptographic software written by Eric Young
* (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim
* Hudson (tjh@cryptsoft.com).
*/

```

Original SSLeay License

```
/* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
* All rights reserved.
*
* This package is an SSL implementation written
* by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
* The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.
*
* This library is free for commercial and non-commercial use as long as
* the following conditions are adhered to. The following conditions
* apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA,
* lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation
* included with this distribution is covered by the same copyright terms
* except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
*
* Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in
* the code are not to be removed.
* If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution
* as the author of the parts of the library used.
* This can be in the form of a textual message at program startup or
* in documentation (online or textual) provided with the package.
*
* Redistribution and use in source and binary forms, with or without
* modification, are permitted provided that the following conditions
* are met:
* 1. Redistributions of source code must retain the copyright
* notice, this list of conditions and the following disclaimer.
* 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
* notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
* documentation and/or other materials provided with the distribution.
* 3. All advertising materials mentioning features or use of this software
* must display the following acknowledgment:
* "This product includes cryptographic software written by
* Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
* The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library
* being used are not cryptographic related :-).
* 4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
* the apps directory (application code) you must include an acknowledgment:
* "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"
*
* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND
* ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
* IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
* ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
* FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
* DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
* OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
* HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
* LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
* OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
* SUCH DAMAGE.

```

*The licence and distribution terms for any publically available version or
* derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be
* copied and put under another distribution licence
* [including the GNU Public Licence.]
*/

This product includes jquery-1.7.1 that has copyright note below:

Copyright (c) 2011 John Resig, <http://jquery.com/>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining
a copy of this software and associated documentation files (the
"Software"), to deal in the Software without restriction, including
without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish,
distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to
permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to
the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be
included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,
EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF
MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND
NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE
LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION
OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION
WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

AVC Patent Portfolio License

*THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE
PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE
REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD
("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER
ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER
LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED
FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C.
SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

その他 (つづき)

保証とアフターサービス

保証書の記載内容で確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容によって、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。故障その他による営業上の機会損失は補償いたしません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店、または最寄りのサービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望に応じて有料にて修理いたします。

サービス窓口

- 下記 URL をご覧ください。
<http://www3.jvckenwood.com/pro/service.html>
- 業務用修理窓口 (045-939-7320)

サービスについてのお問い合わせ先

修理・保守・設置工事については、お買い上げ販売店、または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはサービス窓口に必要なこととお知らせください。

品名	: ネットワークデコーダー
型名	: VN-D5
お買い上げ日	:
故障の状況	: 故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	:
お名前	:
電話番号	:

廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

主な仕様

定格

使用電源	専用 AC アダプター 入力 AC 100 V-240 V※、50 Hz/60 Hz 出力 DC 12 V、3 A
消費電流	1.3 A
許容動作温度	0℃～40℃
許容動作湿度	30 %RH～80 %RH (結露なきこと)
サイズ	W210 mm×H44 mm×D280 mm (フットなど突起を除く)
質量	約 1.8 kg

※ 付属の電源コードは AC 100 V 専用です。本機は必ず AC 100 V で使用してください。

基本仕様

登録カメラ台数	256 台
表示可能カメラ台数	最大 16 台
画面分割表示	1/4/6/9/12/16 分割 登録可能分割表示: 64 画面
シーケンシャル	5 秒～30 秒
受信画像圧縮方式	H.264 High Profile H.264 Baseline H.264 Main Profile
音声圧縮方式	G.711 μ -law
対応配信方式	マルチキャスト/ユニキャスト
出力解像度	3840×2160、1920×1080、1440×900、 1280×1024、1024×768
表示性能	3840×2160/12 Mbps/30 ips: 単画面 1920×1080/4 Mbps/30 ips: 16 分割 (1920×1080 を超えるストリームの分割表示は不可)

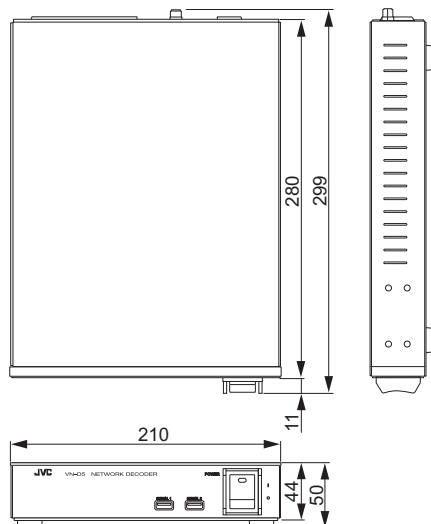
インターフェイス

LAN	RJ-45 ×1、 1000BASE-T/100BASE-TX
シリアル端子	USB 2.0(準拠) Type A ×2
映像出力	HDMI 2.0 Type A ×1
音声出力	RCA×1(最大 1.8 V(p-p))

添付物・付属品

取扱説明書(設置編) ×1、保証書 ×1、
電源コード(約 2m) ×1、専用 AC アダプター ×1、
連結金具 ×1、ねじ(UNC # 6-32) ×4

外形寸法図



- 本機は「高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品」です。
- 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

その他 (つづき)

簡単操作マニュアル

必要に応じプリントアウトしてご利用ください。

本機を起動すると、ライブ表示画面が表示されます。

ライブ表示画面では、接続したネットワークカメラの映像を切り替えながら確認することができます。

設定によってはログインダイアログが表示されます。(P.56)

デフォルトビューボタン
モニターの表示をデフォルトビューの中から選択して切り替えます。

登録ビューボタン
モニターの表示を登録したビューの中から選択して切り替えます。

シーケンシャルボタン
モニターの表示を登録したシーケンシャルパターンから選択して切り替えます。

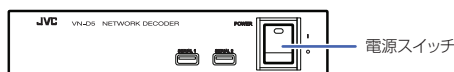
スケジュールボタン
スケジュールのON/OFFを切り替えます。

- マウスを動かすとボタンが表示されます。
- ボタンの操作をするには、ログインをしてください。

本機を起動する

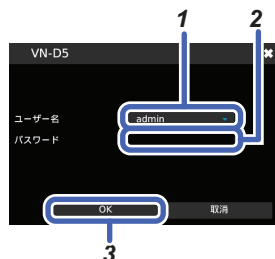
電源を入れると、カメラの画が表示されます。

カメラの画が表示されるまでは、JVC ロゴが表示されます。



ログインする

ログインをしないと、ボタンの操作をすることができません。



ボタン操作をするときに、マウスを動かしてもボタンが表示されない場合は、ログインが必要です。

(起動後に、右クリックして「ログイン」を選択すると、ログインダイアログが表示されます)

ログイン方法

- 1 ログインするユーザー種別を選択する (operator または admin)
- 2 パスワードを入力する (パスワード: _____)
- 3 [OK] をクリックする

以降のボタンを操作するときに、ログインダイアログが表示された場合は、ログインが必要です。ログイン方法は、「ログインする(P.56)(P.76)」を参照してください。

見たいカメラを1つだけ表示する(デフォルトビューボタン)

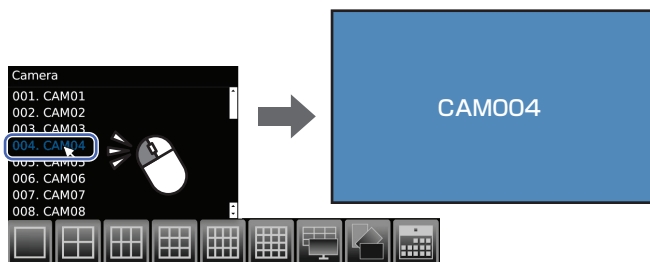
1  ボタンをクリックするとリストが表示されます。



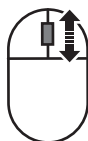
2 表示したいカメラをリストから選択すると、色が変わります。



3 クリックすると、選択したカメラの画が表示されます。




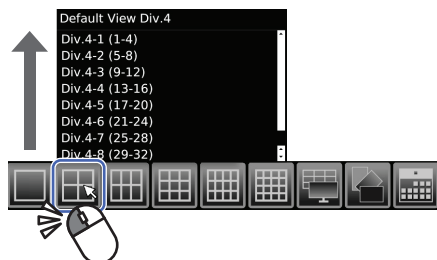
マウスホイール動作で、カメラ表示のデジタルズームをすることができます。



その他 (つづき)

見たいカメラを複数台表示する(手順1) (デフォルトビューボタン)

1  ボタンをクリックするとリストが表示されます。

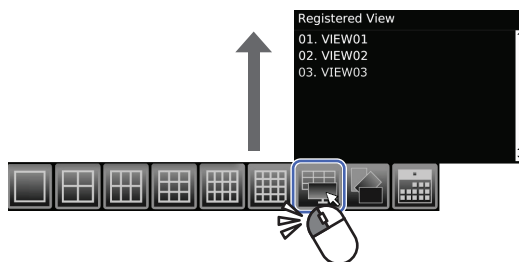


- 2 表示したい表示パターンをリストから選択すると、色が変わります。
- 3 クリックすると、選択した表示パターンの画が表示されます。
- 4 マウスホイール動作で、リストの順番に表示を切り替えることができます。

見たいカメラを複数台表示する(手順2) (登録ビューボタン)

登録されていない場合は、リストに何も表示されません。

1  ボタンをクリックするとリストが表示されます。



- 2 表示したい表示パターンをリストから選択すると、色が変わります。
- 3 クリックすると、選択した表示パターンの画が表示されます。
- 4 マウスホイール動作で、リストの順番に表示を切り替えることができます。

複数台表示中に、1つのカメラだけを表示する


表示されている画の中から、見たいカメラの画をダブルクリックすると、1つのカメラだけが表示されます。

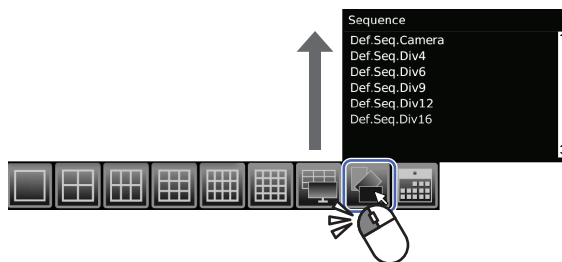
例) 4つのカメラの場合



複数台表示に戻るときには、再度ダブルクリックすると元に戻ります。

カメラの画を一定時間おきに自動的に切り替える(シーケンシャルボタン)

1  ボタンをクリックするとリストが表示されます。



2 表示したい表示パターンをリストから選択すると、色が変わります。

3 クリックすると、選択した表示パターンの画がモニターに表示され、一定時間おきに表示が切り替わります。

一定時間おきに自動的に切り替える設定のときには、複数表示されている中から1つのカメラの画をダブルクリックしても、拡大表示されません。

1つのカメラの画を表示するには、「見たいカメラを1つだけ表示する(デフォルトビューボタン)(P.77)」を参照してください。

スケジュール表示(スケジュールボタン)

時間ごとに決められた表示方法を自動的に切り替えます。

スケジュール表示がONの場合は、他のボタンの操作はできません。

 ボタンを押すたびにON/OFFが切り替わります。

アラーム停止

アラーム表示とブザーを停止する場合は、右クリックし、アラーム停止を選択してください。

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

固定電話  0120-2727-87

携帯電話・PHS  0570-010-114

一部のIP電話など 045-450-8950

FAX 045-450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12